

# 講座のご紹介

2025年10月30日

# 講座一覧

# 講座一覧：品質（ベーシック）

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
品質 (ベーシック)	ソフトウェアテスト、基本の「き」	テスト初心者・未経験者の方を対象とした講座です。ソフトウェアテストの全体像を学び、品質／テストに対する意識を向上させます。	6H	46,200円	QB001SR	QB001SL
	ソフトウェアテスト入門	ソフトウェアテストについて体系的に理解を深めます。品質あるいはソフトウェアテストに対する工程・技法・目的・知識を広く学びます。	6H	46,200円	QB002SR	QB002SL
	テスト自動化入門	キャプチャ&リプレイツールを用いてテスト自動化の基礎を学びます。ソフトウェアテストのプロ集団であるSHIFTが語る、自動化ツールのつかい方入門コースです。	6H	46,200円	QB003SR	QB003SL
	非機能テスト入門（性能・負荷、ユーザビリティ）	近年非常に注目されている非機能テストに関する基礎的な理解を深めます。「非機能テスト」の重要性と全体像、およびその合格基準の決め方など、演習を通じて基礎知識を学びます。	6H	46,200円	QB004SR	QB004SL
	品質管理	あらゆる仕事において、提供物の品質を安定したものにすることは重要なことです。組織の品質を担う方の最初の学びとして、品質管理の基本を学習します。	3H	33,000円	—	QB005HL

# 講座一覧：品質（エンジニアリング）1/5

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
品質 (エンジニアリング)	テスト設計（機能テスト）	結合テストにおける、標準観点を活用した画面・機能テスト設計を学びます。テスト対象をもれなく洗い出す方法や、テスト観点を効率的に展開する方法、適切な組み合わせ技法の選択など、ソフトウェアテスト専門会社SHIFTで実際に使用されている「テスト設計」手法を余すところなく伝授いたします。	6H	46,200円	QE001SR	QE001SL
	テスト設計（シナリオテスト）	システムテスト・受け入れテストにおける、シナリオテスト設計を学びます。要求定義で活用するユースケース図などのモデリング手法を用いながら、シナリオテストケースに落とし込むまでの具体的な手法を身につけます。	6H	46,200円	QE002SR	QE002SL
	テスト演習（機能テスト）	機能テストの計画～設計～実行を仮想プロジェクトを通して実施します。作成したテスト計画書／テスト設計書／不具合報告書をSHIFTが推奨する指標でチェックし、テストに対するスキルの強み・弱みを明らかにします。	6H	46,200円	QE003SR	QE003SL
	仕様書インスペクション	インスペクションの目的と効果を理解したうえで、実施計画の立て方や手法を学びます。さらには、インスペクションの導入・定着をどう進めていけばいいのかを各種のケーススタディを通じて学ぶことで組織の特徴や状況に応じた対応が可能となります。	6H	46,200円	QE004SR	QE004SL
	テスト自動化実践	Selenideを用いてテスト自動化の応用を学びます。「Selenide」を用いたテストの作成、具体的なシナリオの作成、PageObjectデザインパターンのかい方を身につけます。	6H	46,200円	QE005SR	QE005SL

# 講座一覧：品質（エンジニアリング）2/5

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
品質 (エンジニアリング)	DevOpsテスト入門	DevOpsとはアジャイルの先を行って、クラウドと効率的に融合させるという考え方です。DevOpsについての基本的な考え方を学び、DevOpsの生まれた背景と最新動向について学びます。	6H	46,200円	QE006SR	QE006SL
	性能テスト入門	性能テストの考え方に加えて、性能問題の事例を学びます。性能の一般的な知識や事例に加えて、性能テストの考え方や目的、負荷テスト入門について学びます。	6H	46,200円	QE007SR	QE007SL
	セキュリティテスト入門	情報セキュリティの運用、評価、テストに関する基礎知識を学びます。またセキュリティの動向や組織マネジメント、脅威分析の考え方やアタックテストの手法など、セキュリティに関わる幅広い内容を習得します。	6H	46,200円	QE009SR	QE009SL
	設計品質ワークショップ 【基本設計編】	基本設計のあるべき姿を見つめなおし、設計品質向上につなげるヒントを、自らディスカッションを通して探し出すことを目的とするワークショップです。	6H	46,200円	—	QE010SL
	設計品質ワークショップ 【詳細設計編】	詳細設計のあるべき姿を見つめなおし、設計品質向上につなげるヒントを、自らディスカッションを通して探し出すことを目的とするワークショップです。	6H	46,200円	—	QE011SL
	設計品質ワークショップ 【プログラム設計編】	プログラム設計のあるべき姿を見つめなおし、設計品質向上につなげるヒントを、自らディスカッションを通して探し出すことを目的とするワークショップです。	4H	38,500円	—	QE020HL

# 講座一覧：品質（エンジニアリング）3/5

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
品質 (エンジニアリング)	テスト観点のつくり方	テスト観点の全般的な考え方と、その活用方法を学びます。テスト対象にアプローチする視点を身近な例で整理し、テスト観点を導き出す方法を演習を通して習得します。	6H	46,200円	—	QE012SL
	AIテスト入門	AIベースのシステムについて、さまざまな観点で品質の留意点を学びます。また、ハンズオンで機械学習の様子を確認し、理解を深めます。	6H	69,300円	QE014SR	QE014SL
	金融機関のシステムに求められる安全対策基準	当局が金融機関に求めるFISC安全対策基準の内容を学びます。リスクベースアプローチやクラウドデータセンターに求められている安全対策の基準を身につけます。	6H	69,300円	—	QE015SL
	UAT計画の作成・活用実践	本講座では、事業会社としてUATを担当する際に必要なUATの目的や計画、仕様書の作成方法、また実施方法までを学び、ワークを交えてプロジェクト現況を理解し、受け入れテストの計画を立案する手法を学びます。	3H	48,400円	QE016SR	QE016SL
	UATテストシナリオ作成実践	本講座では、事業会社としてUATを担当する際に必要なUATの目的や計画、仕様書の作成方法、また実施方法までを包括的に学ぶことができます。テストシナリオ・仕様書作成をワークで実践することで、受け入れテストの組み立て方を理解できます。	3H	48,400円	QE017SR	QE017SL

# 講座一覧：品質（エンジニアリング）4/5

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
品質 (エンジニアリング)	TDDテスト駆動開発	テスト駆動開発（TDD）は、自動化されたユニットテストとプロダクトコードの開発を行き来することで、プログラムの設計品質を高める方法論です。TDDの体験とともに、よりよいテストの書き方、よりよいファクタリングの進め方をお伝えします。	6H	46,200円	QE008SJR	—
	TDDテスト駆動開発【C#編】	テスト駆動開発（TDD）は、自動化されたユニットテストとプロダクトコードの開発を行き来することで、プログラムの設計品質を高める方法論です。TDDの体験とともに、よりよいテストの書き方、よりよいファクタリングの進め方をお伝えします。	6H	企業研修向け	QE008SCR	QE008SCL
	TDDテスト駆動開発【Python編】	テスト駆動開発（TDD）は、自動化されたユニットテストとプロダクトコードの開発を行き来することで、プログラムの設計品質を高める方法論です。TDDの体験とともに、よりよいテストの書き方、よりよいファクタリングの進め方をお伝えします。	6H	企業研修向け	QE008SPR	QE008SPL
	コンポーネントテスト【Java編】	コンポーネントテスト（単体テスト、APIテスト）を、JUnitを利用した自動テストで実装する方法を学びます。あわせて、コンポーネントテストを容易に実装するための、「保守性」を向上するプログラム設計のポイントを確認します。	6H	46,200円	QE013SJR	—
	コンポーネントテスト【C#編】	コンポーネントテスト（単体テスト、APIテスト）を、MSTestを利用した自動テストで実装する方法を学びます。あわせて、コンポーネントテストを容易に実装するための、「保守性」を向上するプログラム設計のポイントを確認します。	6H	企業研修向け	QE013SCR	QE013SCL
	コンポーネントテスト【Python編】	コンポーネントテスト（単体テスト、APIテスト）を、pytestを利用した自動テストで実装する方法を学びます。あわせて、コンポーネントテストを容易に実装するための、「保守性」を向上するプログラム設計のポイントを確認します。	6H	企業研修向け	QE013SPR	QE013SPL

# 講座一覧：品質（エンジニアリング）5/5

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
品質 (エンジニアリング)	テスト設計総合	ソフトウェアテストの基礎から、機能テストやシナリオテストの設計の基礎まで1日で速習する講座です。	7H	企業研修向け	QE018SR	QE018SL
	発注者のソフトウェアテスト	システム開発の発注者がソフトウェアテストについて正しい知識を持つことは、様々メリットにつながります。本講座では、ソフトウェアの基礎から設計実務の概要、受入テストの概要まで幅広く解説します。	6H	企業研修向け	QE019SR	QE019SL

# 講座一覧：品質（マネジメント）1/2

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
品質 (マネジメント)	<b>PDU取得対象</b> テスト計画	テスト計画書に記載すべき項目を1つひとつ解説したうえで、ソフトウェアテストを計画する際にポイントとなる「テストアプローチ」と「テスト工数見積り」に焦点をあて、その実施ノウハウを学びます。	6H	46,200円	QM001SR	QM001SL
	<b>PDU取得対象</b> テスト管理	テスト計画後の実行管理に焦点をあてて、事前に準備すべき項目、チーム体制づくりのポイント、テスト実行時の留意点や各種Tipsを学び、実際のテスト実行現場で求められるスキルを身につけます。	6H	46,200円	QM002SR	QM002SL
	<b>PDU取得対象</b> 不具合分析	SHIFTが培ってきた「不具合分析ノウハウ」をもとに、不具合データの分析手法、不具合原因の深掘り手法を習得します。また、不具合分析を行う際の落とし穴、不具合分析をより効果的に行うためのノウハウにも触れます。	6H	46,200円	QM003SR	QM003SL
	テストプロセス改善	「TPI NEXT日本語版」の訳者でもある、数田氏からTPI NEXTによるテストプロセスの評価と改善方法を学びます。ご自身のテストプロジェクトの作業評価を行い、改善計画を立案するまでの一連の演習を行います。	8H	55,000円	—	QM004SL
	<b>PDU取得対象</b> テスト戦略	テスト戦略基礎を学習し、実際にテスト戦略を立案することで、品質向上の戦略アプローチを学びます。テスト全体を俯瞰して、品質リスクや課題を解決するための具体的なアプローチを立案、実施するためのポイントを余すところなく伝授いたします。	6H	55,000円	QM005SR	QM005SL
	希望がもてるITサービスの考え方	ITサービスの価値を向上し、組織を進化させる考え方を学びます。ITサービスの価値や品質についての考え方はITサービスに限らず、組織の日常業務にも広く応用できます。	6H	46,200円	—	QM006SL

# 講座一覧：品質（マネジメント）2/2

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
品質 (マネジメント)	<b>PDU取得対象</b> マスターテスト計画書の作成・活用実践	マスターテスト計画書の重要性、およびその内容を詳細に学びます。さらに、各種の演習により、実践力に磨きをかけることができます。	7H	55,000円	—	QM009SL
	テスト計画・管理【実技編】	テスト工程について、より効率的な計画を立て、より正確に管理するための実技を身につける講座です。Excelをつかってテストの工数を詳細に計算し、それにもとづいてテスト計画を立て、日々の実績をビジュアル化して管理する方法を学びます。	6H	46,200円	QM008SR	QM008SL
	生成AI 不具合分析編	SHIFTが培ってきた「不具合分析ノウハウ」をもとに、不具合データの分析手法、不具合原因の深掘り手法を習得します。生成AIの活用によって、効率的に核心に迫ります。	4H	46,200円	—	QM010SL

# 講座一覧：システム開発（ベーシック） 1/2

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
システム開発 (ベーシック)	VBA入門編	VBAを使って、プログラミングの初歩を学びます。独習本では触れないような、経験豊富な講師ならではの壁を超えるポイントを解説します。	6H	46,200円	SB001SR	—
	VBAによるRPAプログラミング	VBAを用いたRPAプログラミングを学びます。Office製品を連携させたり、Webページを操作したりすることによって、単純繰り返し作業を自動化し、より効率的に業務を行うことが可能になります。VBAを活用し、できることの幅を広げましょう。	6H	49,500円	—	SB002SL
	アジャイル・スクラム入門	アジャイル・スクラム開発の基礎を講義、事例、グループワークを織り交ぜながら習得し、疑似開発プロジェクトでスクラムを実践します。基礎知識だけではなく、スクラム開発を実際に体験することで、すぐに業務に活かすことができます。	6H	46,200円	—	SB004SL
	腹落ちできるアジャイル・スクラム（2日コース）	アジャイルの定義やスクラムフレームワークはシンプルですが実践するとなると途端に難しくなります。本講座では実践していくにあたり必要なアジャイル・スクラムの「Why」を理解し、腹落ちができます。	6H × 2日	92,400円	—	SB005WL
	コンピューター成分	コンピューター活用のアイデアを広げるため、コンピューターのことをもっと理解したい。でも、入門書や解説書はむずかしくてよくわからない。そんなお悩みをもつ方にオススメの講座です。コンピューターの主要成分（ハードウェア、ソフトウェア、プログラミング、通信技術）とセキュリティの基礎をわかりやすく解説します。	4H	39,600円	SB006HR	SB006HL

# 講座一覧：システム開発（ベーシック） 2/2

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
システム開発 (ベーシック)	2025年11月リリース予定 ITインフラの初歩知識	ITシステムについてほとんど知識のない方が、ITシステムの構成について説明を受けた際などに感じる「なに?」「なぜ?」「どうして?」という素朴な疑問に、「要は〇〇なんです」というレベルで説明できるレベルで理解いただくことを基本コンセプトとしています。	6H × 2日	94,200円	—	—
	業務モデリング	業務モデリングは、業務を整理して表現し、ビジネスの理解を深める手法です。業務を実施する人の間で共有するほかに、情報システムとの関係を確認することができます。情報システムのテストの精度を高めたり、DXなど業務改善をしたりする際に、有効に活用することができます。	3H	33,000円	SB007HR	—
	システム化企画と要件定義	RFPなどに記載する要件を検討し、整理する作業について、全体の流れと、各要件を考える上でのポイントを解説します。	6H	企業研修向け	SB008SR	SB008SL
	受入テストの計画と設計 (ダイジェスト版)	受入テストは、カットオーバー前の最終チェック段階であり、そのシステムを使用することで実際のサービスや業務を正しく実施できるかを確認するもので、一般的にはユーザー（システムオーナー）主導で行います。本講座では受入テストの、計画作成、基本的手法であるシナリオテストの設計手法、ランダムテストの観点などを解説します。	4H	企業研修向け	SB009HR	SB009HL
	アジャイル開発・DevOps入門	DX案件の推奨開発手法として注目されるアジャイル開発とDevOpsについてまとめて解説する講座です。	6H	企業研修向け	SB010SR	SB010SL

# 講座一覧：システム開発（エンジニアリング） 1/2

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
システム開発 (エンジニアリング)	作るUX・測るUX実践講座	測るUXに加え、作るUXの基本をワークショップで学べるセミナーです。UXのプロから利用者視点活用の実践的な基礎を伝授します。実践編ではワークショップを充実し、現場でつかえるノウハウを習得していただきます。	6H	46,200円	SE001SR	SE001SL
	理想のCXを実現する	CX手法を中心に、システム企画の進め方について知識と理解を深めます。システムの利用者満足度をあげたい方、満足度の向上を販売の拡大につなげたいと考えている方、より効果の高いシステム企画を行いたい方にオススメの講座です。	6H	55,000円	SE002SR	SE002SL
	<b>PDU取得対象</b> 要件定義入門	プロジェクト遅延原因の大半を占める要件定義工程の品質向上策の講座です。これから本格的に要件定義を担当する方や、部下に要件定義の進め方を教育する方にとって、有用な内容となっています。	6H	46,200円	SE003SR	SE003SL
	<b>PDU取得対象</b> 要件定義の実践	システム化方針の立案～評価～決定といった超上流工程、および業務要件/システム要件の定義といった上流工程におけるポイントについて学んだうえで、各種の演習により実践力を身につけます。	7H	55,000円	—	SE006SL
	パッケージ業務システムの選定・導入プロセス講座	パッケージ業務システムの製品選定や導入プロセスの重要なポイントについて学びます。 具体的には、パッケージ業務システムの導入がもたらすメリットやリスク、製品選定における比較検討の方法やつまづきやすいポイントなどについて解説します。	4H	39,600円	—	SE007HL

# 講座一覧：システム開発（エンジニアリング） 2 / 2

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
システム開発 (エンジニアリング)	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">2025年11月リリース予定</div> 情報セキュリティ	情報セキュリティの脅威、脆弱性、脆弱性対策について最新動向を含めて学びます。	6H	—	—	—
	コンピューター基礎	コンピューターの基本的な知識のうち、特にインストラクター担当が理解しておくべきポイントを学習します。	6H	46,200円	—	SE010SL
	ネットワーク	ネットワークの基本的な知識のうち、特にインストラクター担当が理解しておくべきポイントを学習します。	6H	46,200円	—	SE011SL
	データベースインフラストラクチャー	データベースに関わる専門知識のうち、要件に応じたデータベースとデータベースを稼働させるインフラストラクチャーについて、最適な選定をするためのポイントを学習します。	7H	46,200円	—	SE012SL
	クラウドサービス入門	クラウドサービスはビジネスの強みとなる一方、セキュリティやサプライチェーンリスクへの注意が必要です。本講座では、ITの専門知識がなくてもクラウドサービスの基礎知識を習得できるよう、最新の動向や実際の活用例をわかりやすく解説します。ビジネスで活用できるクラウドに踏み出しましょう！	7H	46,200円	SE013SR	SE013SL

# 講座一覧：システム開発（マネジメント）

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
システム開発 (マネジメント)	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; color: white; background-color: red;">PDU取得対象</div> プロジェクトマネジメントの実践	ソフトウェア開発業務を管理・推進するにあたり、必要となるプロジェクトマネジメントの基礎知識をPMBOKのフレーム（知識エリア／プロセス群）に沿って解説します。 さらに、個人演習やグループ演習を通して、実際のプロジェクトマネジメントを実践いただきます。	7H	55,000円	—	SM001SL
	現場力を高める攻めのプロジェクト進捗管理	本講義では一般的に学ぶプロジェクトマネジメント知識の進捗管理部分に加え、PM/PMOとして進捗管理を担当する中で現場で遭遇する課題やそれらの解決方法をワークを交えて体系的に学ぶことができます。	6H	82,500円	SM002SR	SM002SL
	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; color: white; background-color: red;">2026年1月リリース予定</div> 要求開発実践ワークショップ	システム開発プロジェクトにおける効果的な要求開発の原則と手法を学び、ビジネス戦略とシステム実装の架け橋となる実践的アプローチを習得する入門講座です。	7H	企業研修向け	—	—
	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; color: white; background-color: red;">2026年2月リリース予定</div> IT化推進	DX推進のために必要な、IT化の中長期計画、個別システム化計画、個別案件の推進および管理手法について包括的に学ぶ講座です。	6H	企業研修向け	—	—

# 講座一覧：ビジネス変革

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
ビジネス変革	デザイン思考入門	アイデアを創出する手法であるデザイン思考について、その目的や具体的なプロセスについてわかりやすく解説します。DXを進めるための基礎知識は習得したが、イノベーションのアイデアが思いつかない、デザイン思考は敷居が高い、一度学んだがよくわからなかった、そんな苦手意識をもつ方にオススメです。	4H	39,600円	BH001HR	BH001HL
	DXパターン	DXは担当部署だけでやるものではなく、だれもがDXを主体的に推進することを求められています。本講座では、DXの全体像、イノベーションの考え方、注目のデジタル技術、テストの方法など、DX推進に踏み出すためのエッセンスをまとめて解説します。	4H	39,600円	BH002HR	BH002HL
	生成AI入門	生成AIの基本概念からスタートし、その活用方法や活用するリスク／活用しないリスクを学びます。「明日からの業務改善に役立つ」具体的な実践スキルの習得を目指す講座です。	3H	33,000円	—	BH003HL
	生成AI 業務活用編	生成AIを一般業務に活用するための方法を学びます。エンジニアではない方に、わかりやすいプロンプトの記述方法から、業務での生成AIの活用方法を練習します。	4H	46,200円	—	BH004SL
	生成AI テスト設計編	生成AIを用いたソフトウェアテスト設計業務に関連した具体的な活用方法を演習を通して学びます。生成AIを活用してテストの作業効率化を推進したい方、テスト設計で役立つプロンプトを知りたい方、必見です。	4H	46,200円	—	BH005SL
	生成AI ユニットテスト編	生成AIの活用はシステム開発工数の削減に一定の効果があります。まずはユニットテストのコードを生成AIに作らせるところから試してみませんか？少ない工数でソースコードの品質を大きく向上するだけでなく、後工程の工数削減にも役立つことが実感できるはずです。	4H	46,200円	—	BH006SL

# 講座一覧：ビジネススキル

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
ビジネススキル	課題解決実践提案 入門編	ロジカルシンキングを活用し、課題や要求を論理的に分解し、納得感のある施策を提案するための課題解決テクニックを習得します。	6H	46,200円	—	GK001SL
	議事録の作法	会議における議事録の目的や重要性を理解し、演習を通じて議事録の作成手順を学びます。	4H	33,000円	—	GK002HL
	情報セキュリティ心得	情報セキュリティの大切さと、日々の行動における情報セキュリティリスクを学びます。	4H	33,000円	—	GK003HL
	施策推進	業務を遂行する上で避けられない、施策推進のためのヒューマンスキルとマインド、組織を動かす際に生じがちな組織間での板挟み状況を調整する際のポイントなどについてお伝えします。	4H	46,200円	GK004HR	GK004HL

# 講座一覧：ヒューマンスキル

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
ヒューマン スキル	<b>2026年1月リリース予定</b> リーダーシップ心理学研修	リーダーシップに必要な心理学的アプローチを学び、部下や顧客との良好な関係構築を目指します。コミュニケーションの障壁を破る技術（BCB）を基に、NLP（神経言語プログラミング）やTA（交流分析）の要素を取り入れています。	7H	企業研修向け	—	—

# 講座一覧：提携講座（ITスキルアカデミー）

クラス	講座名	講座紹介	講義時間	受講料 (税込)	講座コード	
					集合	オンライン
提携講座 (ITスキルアカデミー)	導入事例から学ぶAI入門セミナー	ビジネスにAIを活用する方法を紹介します。 システムの企画・提案に必要なAIの基礎知識を解説し、AIの導入事例を学ぶことで、AI活用のポイントを整理していきます。	3H	30,800円	ZK001HR	ZK001HL
	マウスで学ぶAI実践セミナー	AIの開発手法（機械学習）はデータの前処理や学習・評価、システムへの組み込みなど、簡単なマウス操作だけで機会学習を体験しながら、ハンズオン形式でAI開発のプロセスを学びます。	6H	61,600円	ZK002SR	ZK002SL
	JDLA G検定対策セミナー	いま、注文されている日本ディープラーニング協会が実施するDeep Learning for General（G検定）の取得をめざし、演習問題を交え必要な知識を身につけます。	6H × 2日	123,200円	ZK003WR	ZK003WL
	Pythonで学ぶAI開発入門セミナー	Pythonを活用したAI開発の流れを学ぶ事ができます。 開発環境の解説から、NumPy、Matplotlib、sckit-learnなどの機械学習に必要なライブラリの利用方法まで幅広く学びます。	6H	61,600円	ZK004SR	ZK004SL
	Pythonで学ぶニューラルネットワーク基礎セミナー	ディープラーニングの基礎となるニューラルネットワークの仕組みを学びます。ディープラーニング用のライブラリKerasを活用したプログラミングについても学習していきます。	6H	61,600円	ZK005SR	ZK005SL
	Kerasで学ぶディープラーニング実践セミナー	オープンソースのディープラーニングライブラリKerasを活用したプログラミング手法を学びます。画像認識プログラムを開発しながら、データの前処理、過学習対策、CNN、転移学習といった実践的な手法を学びます。	6H	61,600円	ZK006SR	ZK006SL

# 講座紹介

# ソフトウェアテスト、基本の「き」 ～ゼロから学ぶ品質センス～

ベーシック

## 【概要】

### ★新人・テスト未経験者向け★

本講座は、新人教育を担当しているお客様の声から生まれました。  
新人の品質意識をもっと向上したい、これから初めてテスト業務に携わるので基礎から学びたい、という方にオススメの講座となっております。

本講座では、「テストや品質に関する基礎知識」を解説します。  
演習は、テストの考え方や仮想業務アプリを使ってテストのコツをつかむものなどをご用意しています。  
グループ演習では、自身が見つけられなかったことを他の参加者や講師からの指摘を通して学ぶことができます。

※オンライン参加の方へ  
プロジェクトの疑似体験として折り紙を使用しますので、15cm × 15cm の紙を2枚をご用意ください。  
白紙でも色紙でも広告紙でも結構です。

## 【受講後の効果】

- ・ 開発初心者における品質の捉え方を習得する
- ・ 不具合を実際に見つける事で、どのあたりに問題（バグ）が潜んでいるか、その勘所を習得する
- ・ 品質を担保する意味を理解し、品質／テストの基礎知識を習得する

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ソフトウェアテスト未経験者</li><li>・ テスト（品質）チームにこれから異動するテスト未経験者</li><li>・ 開発経験はあるが、テスト（品質）業務は未経験の方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	エントリー・初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QB001S

## 講義内容

1. テストを体験してみよう
  - ・ 講義前のテスト実行体験
  - ・ 講義前のセルフチェック
  - ・ どうすればよかったか
2. テストがどうして必要なのか考えよう
  - ・ 作業とそのゴール
  - ・ 「良い」「悪い」の基準
  - ・ 立場から見た基準の違い
3. テストを上手に実施する方法を考えよう
  - ・ 読み易い「指示」とは
  - ・ 「うまくできた」ことの確認
  - ・ 正確に情報を伝達するには
4. 最後にもう一度、テスト実行してみよう
  - ・ 講義後のテスト実行再体験
  - ・ 講義後のセルフチェック（問診票）

※内容は変更になる場合もあります。

# ソフトウェアテスト入門

## ～「テストに関する知識」、「品質に関する知識」を習得～

ベーシック

### 【概要】

本講座では、ソフトウェアのテストと品質管理全般について解説します。テストで効率的にバグを検出するためには、正しい知識とスキルが必要です。本講座は、SHIFTの「テストに関する知識」や「品質に関する知識」を元に、品質とは何かから、テストプロセス、テスト技法、テスト管理、品質分析まで、幅広い内容を取り上げています。タイトルは入門となっていますが、かなり内容の濃い講座です。

講義だけでなく、豊富な演習（個人演習とグループ演習）を通して、知識と理解を深めます。

「これからソフトウェアテストに関わるので、基礎固めをしたい」という方にはもちろん、「基礎的なことを学ばないままやってきたので、改めて学び直したい」、という方にもたいへんオススメの講座です。

### 【受講後の効果】

- ソフトウェア品質に対する基本的な考え方を身につけることができる
- テスト設計、品質分析、プロセスの基礎的な知識を身につけることができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• ソフトウェア開発経験があり、今後テストや品質分析を担当される方</li><li>• ソフトウェアの品質保証に関わる知識を整理したい方</li><li>• 品質に関わる広い知識を習得したい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	エントリー・初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QB002S

### 講義内容

1. 品質を考える
  - ソフトウェアテストの役割
  - (演習) 品質とは？
  - 品質に対する期待
  - 品質モデル
  - 品質を考える
2. テストプロセス
  - (演習) テストプロセス
  - 開発工程とテストプロセス
  - テストレベルとテストタイプ
3. テスト技法
  - テスト技法の種類
  - レビュー技法
  - ブラックボックステスト技法
  - (演習) 同値分割、境界値分析
  - (演習) デシジョンテーブル
4. テスト管理
  - (演習) テストの立て直し
5. 品質分析
  - 品質分析の目的と手順
  - ソフトウェア品質のメトリクス
  - (演習) 品質分析
  - 何をいつ分析するのか

※内容は変更になる場合もあります。

# テスト自動化入門

## ～テストオートメーションの基礎～

ベーシック

### 【概要】

★はじめてのテスト自動化に最適★

本講座では、品質保証の「方法論」の一つである「テスト自動化」を学びます。テスト自動化の基礎を学び、簡単な操作で自動テストをつくることができます。

ほとんどの方が必要性を感じているにも関わらず、ついつい後回しにしてしまいがちな「テスト自動化」。

実は意外と簡単にできるのです。自動化の導入を迷っている方に、成功するテスト自動化へのステップとその魅力、自動化のリアルな現場をお伝えします！

本講座は、そのはじめの一步を踏み出すための自動化ツールのつかい方入門コースです。開発者でなくとも、最低限の前提知識のみで参加できる講座です。運用時の落とし穴など、やや応用的な内容にも踏み込みます。また、演習を通じてテスト自動化の基礎知識を学び、そのメリットを考えます。

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>テスト自動化に興味があり、これから習得したい方</li><li>現状のテスト業務を効率化したい方</li><li>単なるコーディング／テスト実行だけではない、+αのスキルを身につけたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>htmlが読める方</li></ul>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>本講座にオンラインで参加される方は、各自のPCに自動化環境をインストールしていただく必要があります。</li><li>本講座は、サーバーを利用した演習を行いますが、常設サーバーではなく、研修にあわせて設定します。</li><li>PCのインストール制限や、ネットワークのアクセス制限など、企業のセキュリティポリシーが厳しい場合は、個人所有PCでの受講をご検討ください。</li><li>詳細は「オンライン受講にあたって」の「オンラインハンズオン受講環境」をご確認ください。</li></ul>

レベル感	エントリー・初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QB003S

講義内容
<ol style="list-style-type: none"><li>自動テスト基礎<ul style="list-style-type: none"><li>自動テストのメリット</li><li>Seleniumとは？</li></ul></li><li>キャプチャ&amp;リプレイツール入門<ul style="list-style-type: none"><li>キャプチャ&amp;リプレイツールの基本的なつかい方の説明</li></ul></li><li>テスト自動化の「やってはいけない」<ul style="list-style-type: none"><li>テスト設計・運用のアンチパターン</li></ul></li><li>演習<ul style="list-style-type: none"><li>テストケースをつかった演習</li></ul></li></ol> <p>※内容は変更になる場合もあります。</p>

### 【受講後の効果】

- キャプチャ&リプレイツールの基本的な機能を理解し、自動テストをつくることができる
- 自動テストに必要な注意事項を理解する

# 非機能テスト入門（性能・負荷、ユーザビリティ） ～注目度急上昇のテスト領域～

ベーシック

## 【概要】

本講座では、「非機能テスト」の概要を学びます。システム要件のうち機能要件以外のものが非機能要件です。その中で、品質に関する要求についてテストするのが非機能テストです。クラウド化の進展などにより、非機能品質への要求内容は変わっていますが、利用者の満足度に大きく影響する点は変わりません。むしろ非機能テストの重要性はますます高まっているといえます。本講座では非機能テストの全体像を紹介するとともに、性能やユーザビリティの評価方法については、より深く解説していきます。演習ではテキストを振り返りながら、知識と理解を深めます。

非機能品質や非機能テストについて基礎から学びたい方はもちろん、テスト管理やテスト内容のレビューを担当される方など、関連業務携わる方どなたにもオススメの講座です。

## 【受講後の効果】

- ・ 非機能全体の考え方を理解する
- ・ 負荷テスト、ユーザビリティテストの考え方を習得する

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ システムに求められる非機能について学びたい方</li><li>・ 非機能テストの全体像、合格基準の決め方の基礎を学びたい方</li><li>・ 特にユーザビリティテスト、負荷テストに関心のある方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	エントリー・初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QB004S

## 講義内容

1. 非機能とは
  - ・ 非機能テストとは？
  - ・ (演習) 非機能を考える
  - ・ 非機能と品質特性
  - ・ (演習) 非機能の分類
2. 非機能テストの実施方法
  - ・ 非機能テストの実施例
3. 非機能テストのアプローチ (性能、負荷)
  - ・ 性能効率性テストの考え方
  - ・ テストを行う理由
  - ・ 負荷テストツール
  - ・ (演習) キャパシティ予測
4. 非機能テストのアプローチ (ユーザビリティ)
  - ・ ユーザビリティ、アクセシビリティ、UX
  - ・ ユーザビリティテストの分類と実施例
  - ・ ユーザビリティ改善のヒント
  - ・ (演習) 非機能テストの整理
5. 非機能テストの合格基準の設定
  - ・ 非機能テストの合格基準
  - ・ 非機能テストの問題点
  - ・ 合格基準を決めるために
  - ・ (演習) 非機能テストの合格基準の設定
  - ・ (演習) 非機能検討のケーススタディ

※内容は変更になる場合もあります。

## 【概要】

品質管理とは、製品やサービスの品質を確保するための活動です。あらゆる仕事において、提供物の品質を安定したものにすることは重要なことです。

本講座では、品質とは何か、保つためにはどうすれば良いのか、身近な例をつかって考えていきます。

また、情報システムの品質管理としてアプローチ方法や品質を確保する工程について学び、品質管理を確実に実行するための運用、さらにはその評価と改善、品質管理に使う道具（視覚化手法）を理解していきます。

品質が悪いと、不良品が増えてお客様からの支持を失い、クレームや訴訟リスクが増加するなど大きな問題を引き起こします。その一方で品質がよくと、企業の信頼性が増し、競争力も高まります。

組織の品質を担う方の最初の学びとして、本講座をオススメします。

## 【受講後の効果】

- 品質管理とはどういうものなのか、品質を評価する際の基準や対象範囲、品質チェックについて理解できるようになる
- 情報システムにおける品質とその管理について理解できるようになる
- 品質管理を確実に行う方法について理解を深めることができる
- 継続的に効果的効率的な品質管理を行ううえで、ポイントとなる品質管理の評価と改善を理解できるようになる
- 品質を視覚化する手段を理解できるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質管理の基本を学びたい方</li> <li>品質管理活動を理解できるようになりたい方</li> <li>情報システムに求められる品質を理解し、開発プロセスの中で考えられるようになりたい方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>特にございません</li> </ul>
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	14:00 – 17:00
講座コード	QB005H

## 講義内容

- 品質管理とは
  - 品質とは
  - 品質を保つために
- 情報システムの品質管理
  - 情報システムの品質
  - 情報システムの品質管理
  - 品質管理のアプローチ
- 品質管理の運用
  - 品質管理を行うために
  - 品質確認のポイント
- 品質管理の評価と改善
  - 品質管理の継続
  - 提供後の品質管理
- 品質管理の道具
  - 品質管理の道具

※内容は変更になる場合もあります。

# テスト設計（機能テスト） ～効率的に漏れのないテスト設計手法を習得～

エンジニアリング

## 【概要】

本講座では、機能テストの効率的なテスト設計手法を学びます。

テスト設計をこれから始めるという方、テスト設計に携わっているが、こんな悩みを抱えている、そんなみなさんにオススメの講座です。

- ・テストの抜け漏れで本番稼働後にバグが出る
- ・工数はあまりかけないで、品質も確保したい
- ・テスト設計の進め方が人にバラバラで、テスト密度がコントロールできない

テスト対象を漏れなく洗い出す方法、テスト観点を効率的に展開する方法、適切な組み合わせ技法の選択など、ソフトウェアテストのプロ集団であるSHIFTで実際に使用されている「テスト設計」手法を元に実践的なノウハウを解説します。そして演習を通して、実務ですぐに活用できるスキルを身につけていきます。

## 【受講後の効果】

- ・ 基本的なテスト設計プロセスが理解でき、効率的で必要十分なテストケース設計ができるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ テスト設計の技法と具体的な実践方法を習得したい方</li><li>・ 担当者によって異なるテスト設計を改善し標準化したい方</li><li>・ 網羅的なテスト設計にしようとする組み合わせが膨大になりお困りの方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	QE001S

## 講義内容

### 1. テスト設計の基礎

- ・機能テストについて
- ・よいテスト設計
- ・テストプロセスにおけるテスト設計
- ・テスト設計書フォーマット
- ・テスト設計書作成プロセス

### 2. 確認項目一覧作成実践

- ・確認項目一覧
- ・テスト対象の明確化
- ・（演習）テスト内容の洗い出し
- ・テスト観点
- ・確認項目と期待値
- ・（演習）確認項目一覧の作成

### 3. パターン表作成実践

- ・パターン表
- ・組み合わせとパターン表
- ・因子・水準
- ・（演習）因子・水準の洗い出し
- ・組み合わせの検討
- ・組み合わせ削減手法
- ・（演習）組み合わせの作成

### 4. テスト設計書チェック実践

- ・テスト設計書チェックのポイント

※内容は変更になる場合もあります。

# テスト設計（シナリオテスト）

## ～業務フローなどを基に網羅的なテスト設計を習得～

エンジニアリング

### 【概要】

本講座では、品質保証の「方法論」の一つである「テスト設計（シナリオテスト）」を学んでいただきます。

要求定義で活用するユースケース図などのモデリング手法を用いながら、シナリオテストケースに落とし込むまでの具体的な手法を身につけます。

システム全体をブラックボックステストとして捉え、業務フローに沿ったシナリオからテストケースを設定する「シナリオテスト」。

ユーザーニーズを満たすためには非常に重要なテストですが、実際に設計してみると漏れや重複が発生しやすく、エンジニアの力量が問われるこの「シナリオテスト」をどう設計するか？

シナリオテストで機能テストと同じテストをやってしまう、シナリオとしての網羅の仕方がわからない、という方にオススメの講座です。

### 【受講後の効果】

- ・ 網羅的なシナリオテストの設計ができる
- ・ シナリオテストの実行効率を考えられるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 網羅的なシナリオテスト設計方法を習得したい方</li><li>・ シナリオテストケースをより効率的に作成したい方</li><li>・ 機能テストと差別化したテストケースを作成したい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QE002S

### 講義内容

1. シナリオテスト設計基礎
  - ・ シナリオテストとは？
2. シナリオテスト設計実践
  - ・ シナリオテスト設計プロセス
  - ・ シナリオテスト設計演習

※内容は変更になる場合もあります。

# テスト演習（機能テスト） ～仮想プロジェクトで腕試し - スキルレポート付～

エンジニアリング

## 【概要】

★ソフトウェアテスト講座の総合演習版！★

本講座では、品質保証の「方法論」である「テスト設計」を総合演習形式で学んでいただきます。

機能テストの計画～設計～実行を仮想プロジェクトを通して実施します。作成したテスト計画書／テスト設計書／不具合報告書をSHIFTの経験に基づいた独自の方法で判定し、テストに対するスキルの強み・弱みを明らかにします。

また、スキル判定の内容をグループディスカッションを通して振り返ることにより、作成時に気をつけるべきポイントや品質に対する理解を深めます。  
ご自身の作成したテスト計画書やテスト設計書に自信を持ってない方、改善が必要だと思うけどどこを直せば良いかわからず悩んでいる方にオススメの講座です。

## 【受講後の効果】

- 既存のテスト知識の活用方法を習得する
- 実践的なテスト設計スキルを、一連のテスト設計、テスト実施、報告のプロセスに沿った実習を通じて習得する
- 自身の保有するテスト設計知識やスキルの課題を理解する

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• テスト計画書／テスト設計書／不具合報告書の作成において、品質をあげるために意識すべきポイントを学びたい方</li><li>• ご自身で作成したテスト計画書／テスト設計書／不具合報告書の品質レベルを把握し、改善すべきポイントを知りたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 以下の講座を受講済であることが望ましい<ul style="list-style-type: none"><li>- テスト設計（機能テスト）</li><li>- テスト計画</li></ul></li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QE003S

講義内容	
1. 演習の前に	・ソフトウェアテストについての基本事項を確認します。
2. 演習1（テスト計画）	・テスト計画を立案します。 ・立案する過程で実施したスキルを自己採点します。
3. 演習2（テスト設計）	・計画した方針にもとづいて、テスト設計を作成します。 ・設計する過程で実施したスキルを自己採点します。
4. 演習3（テスト実行）	・不具合報告書を作成します。 ・作成する過程で実施したスキルを自己採点します。
5. 全体振り返り	・今後各自がどのようにスキルアップしていくかを整理し、発表します。
※内容は変更になる場合もあります。	

# 仕様書インスペクション

## ～上流品質を高め手戻りを防ぐドキュメントレビュー技法～

エンジニアリング

### 【概要】

本講座では、品質保証の「方法論」の一つである「仕様書インスペクション」を学びます。

インスペクションを導入し定着させることで、上流工程から不具合をなくしていくことができ、開発工数の削減が可能となります。また、品質に関する意識醸成にも寄与します。

また、インスペクションの導入・定着をどう進めていけばいいのかについて、各種のケーススタディを行うことで組織の特徴や状況に応じた対応が可能となります。

「品質保証」が下流工程（テスト）に頼りがちになってしまう、テスト実施期間の制約により品質が危うい、そんなお悩みをおもちの方にオススメの講座です。テストによる品質向上ではなく、上流工程から効果的な品質向上に取り組んでみませんか？

### 【受講後の効果】

- 設計上流工程で活用できるインスペクション技法を習得する
- 効率的かつ効果的なレビューの手法を考えられるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• より効果的なレビューを行うためのスキルを身につけたいとお考えの方</li><li>• 成果物（ドキュメントなど）の品質向上に取り組みたいが、具体的な方法がわからず困っている方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• ソフトウェアの開発やテストの経験がある方もしくはその管理推進業務にたずさわったことのある方</li></ul>
注意事項	

レベル感	中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	QE004S

### 講義内容

1. インスペクション基礎
  - インスペクションの定義と目的
  - 各種レビュータイプにおけるインスペクションの位置づけ
  - インスペクションの効果
  - インスペクションに関するよくある誤解
2. インスペクション計画
  - インスペクションのプロセス
  - インスペクション計画の記載項目
  - 計画書作成時の重要ポイント
3. インスペクションの手法
  - インスペクションで使用する技法
  - インスペクションの観点
    - (演習問題) インスペクションの実施①
    - 試験性の観点でのインスペクションとは
    - (演習問題) インスペクションの実施②
4. インスペクションの改善・適用
  - ケーススタディー  
(インスペクションの導入失敗事例をもとに)
  - (演習問題) 典型的な導入時の問題について解決法を考える
  - インスペクションを導入し定着させるためのポイント

※内容は変更になる場合もあります。

# テスト自動化実践 ～「Selenide」を用いた実践的なWebテストのハンズオン～

エンジニアリング

## 【概要】 ★テスト自動化の総合演習版！ ★

本講座では、品質保証の「方法論」の一つである「テスト自動化」を学びます。ソフトウェアテストのプロ集団であるSHIFTが、成功するテスト自動化へのステップとその魅力をお伝えします！

この講座では、GUI自動テストOSSの代表格である Selenide について、演習を中心に使い方を学びます。Selenideは簡潔で書きやすいAPIを提供し、環境構築も簡単に行うことができます。

本講座は、「テスト自動化入門」の上級講座で、自動化ツールの実践講座となります。テスト自動化の基礎を学び、「Selenide」を用いたテストの作成、具体的なシナリオの作成、テストコードの保守性を上げるためのPageObjectデザインパターンの使い方を身につけます。

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>自動テストに興味があり、基本的な知識はあるが実務で活用できていない方</li><li>テスト自動化に本格的に取り組めていないものの、導入を前向きにご検討されている方</li><li>CI（継続的インテグレーション）をはじめたいと思っている方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>初級程度のプログラミング経験がある方（Javaでテストスクリプトを書くため）</li></ul> ※アノテーションの書き方を理解しているのが望ましいです
注意事項	本講座ではリモートデスクトップを利用した演習を行うため、オンライン参加の場合、30分ごとに再接続が必要になるなど少々制約が発生いたします。そのため、東京近郊にお住まいの方には会場参加を推奨いたします。お住まいの地域、その他の事情によりオンライン参加をご希望の方は、若干ご不便をおかけいたしますが、「オンライン受講にあたって」の「オンラインハンズオン受講環境」で環境などをご確認のうえ、お申し込みください。

レベル感	中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	QE005S

講義内容
<ol style="list-style-type: none"><li>1. テスト自動化とは<ul style="list-style-type: none"><li>・テスト自動化入門ふりかえり</li><li>・テスト自動化 Next Step</li></ul></li><li>2. Selenideハンズオン<ul style="list-style-type: none"><li>・環境確認</li><li>・Selenium IDEからの移行</li><li>・PageObject</li></ul></li><li>3. Selenide演習<ul style="list-style-type: none"><li>・自動テスト作成演習</li></ul></li></ol> <p>※内容は変更になる場合もあります。</p>

## 【受講後の効果】

- ・ Selenideを使ってテスト自動化ができる
- ・ 状況に応じて技術の使い分けができる
- ・ 保守性のよいテストコード、テストスクリプトを書ける

# DevOpsテスト入門

## ～継続的デリバリーを実現するテストのアプローチ～

エンジニアリング

### 【概要】

★DevOpsにおける品質にフォーカス★

DevOpsとはアジャイルの先を行って、クラウドと効率的に融合させるという考え方です。

本講座は、DevOpsについての基本的な考え方を学び、DevOpsの生まれた背景と最新動向について学びます。

過去のシステム開発は収束傾向にあって、これからの時代はDXをはじめとした新しいビジネスに向けてシステムを考えなければいけません。

DevOpsで変わっていく品質の考え方、品質確保のポイントを学びます。

本講座では、DevOpsについてその背景と歴史を学んだうえで、DevOpsの全体のプロセスを俯瞰し、テストの位置づけを明確にし、DevOpsに求められるテストの変化方向を学びます。

また、継続的デリバリーを実現するために必要なアジャイル・クラウドの活用および、組織文化の変革の勘所を演習を通して学びます。

### 【受講後の効果】

- 基本的なDevOpsの概念を理解できる
- DevOpsにおける品質の考え方が理解できる
- DevOpsでのテストアプローチが理解できる
- リスクベーステストを活用したテスト方針の立案ができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• DevOpsの意味や最近の事情を知りたい方</li><li>• DevOpsやアジャイルにおける品質確保の考え方を確認したい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	QE006S

### 講義内容

1. DevOps基礎、はじまりと現在
  - DevOpsとは
  - DevOpsとは～最新動向～
  - DevOpsと品質
2. DevOpsにおけるテストアプローチとテスト駆動開発の基礎
  - DevOpsとテストアプローチ
  - TDD / ATDD / BDDによる欠陥予防
3. DevOpsにおけるテスト計画とリスクベースドテスト
  - DevOpsにおけるテスト計画
  - ソフトウェアとリスク
  - DevOpsとリスクベースドテスト

※内容は変更になる場合もあります。

### 【概要】

#### ★性能テストの入門編★

本講座では、性能テストの考え方に加えて、性能問題の事例を学びます。また、負荷テストツールApache JMeterを利用した演習を行います。性能テストにとりくむエンジニアにとって、有用な内容となっています。

性能テストはシステムが期待の性能を満たしているかどうかを確認するための重要な作業です。

性能テストを正しく実行するためには、テストの目的を明確にし、それに従ってメトリクスを採取し、評価する必要があります。

本講座では、性能の一般的な知識や事例に加えて、性能テストの考え方や目的、負荷テスト入門について学びます。

これから性能テストにとりくむ方だけでなく、より高度な性能テストを行いたい方にもオススメです。

### 【受講後の効果】

- 性能テストで行うべき内容について理解する
- 性能問題の事例からその仕組みを把握し、性能テストにどのようにとりくむべきかを考えることができる
- 性能問題を防止するための性能テストを検討し、実施できる

対象者	• 性能テストの考え方や事例を学習したいエンジニアの方（特にソフトウェア開発者）
前提知識	• 特にごさいません
注意事項	• オンライン参加では、Chrome Remote Desktop を利用するため、Google ID（Gmailなど）が必要となります。

レベル感	中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QE007S

### 講義内容

1. 性能とは
  - 性能に関する一般的な知識
2. 性能問題の種類
  - よくある性能問題についての発生のしくみ
3. 性能テストの考え方
  - 性能テストの分類と目的の整理
4. 負荷テスト入門
  - Apache JMeterを使って負荷テストを実行する手順の確認

※内容は変更になる場合もあります。

# セキュリティテスト入門 ～身近なリスクから理解しよう～

エンジニアリング

## 【概要】

### ★セキュリティテストの入門編★

本講座では、セキュリティの基本の考え方を広くお伝えします。  
ITシステムの構築運用に関わる方だけでなく、ITシステムをつかう立場の方にも、  
有用な内容となっています。

情報セキュリティの確保は、いまやあらゆるシステムにとって必須のものとなっています。

そのためには、セキュリティに関しての分析や要件検討、そして組織立ったセキュリティの運用についての知識が欠かせません。

本講座では、セキュリティの動向や組織マネジメント、脅威分析の考え方やア  
タックテストの手法など、セキュリティに関わる幅広い内容を習得することができます。  
セキュリティ関連でよくいわれる規則を守るだけでなく、その本質を理解し  
た行動を身につけたい方にオススメです。

## 【受講後の効果】

- セキュリティの最新動向を知り、日常行動のなかでセキュリティリスクを意識できる
- セキュリティ対策によってどのようにリスクが抑えられるかを考え、セキュリティ対策を踏まえた行動ができる
- ITシステムのセキュリティ評価分析の手法を知り、システム構築のためのWBSを策定することができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• ITに関わる方（利用、運用、構築）全般</li><li>• ソフトウェア開発に携わる方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特にございません</li></ul>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>• オンライン参加では、Chrome Remote Desktop を利用するため、Google ID（Gmailなど）が必要となります。</li></ul>

レベル感	中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	QE009S

## 講義内容

1. 情報セキュリティの動向
  - セキュリティの動向
  - よくある攻撃手口や脆弱性
2. 情報セキュリティマネジメント
  - システム運用における情報セキュリティの技術と対策
3. セキュリティ評価基準
  - 情報セキュリティの要件とその保証
4. 脅威分析
  - 情報セキュリティのリスク分析
5. セキュリティアタックテスト
  - アタックテストの手法

※内容は変更になる場合もあります。

# 設計品質ワークショップ【基本設計編】

～開発コストの最適化を考える～

エンジニアリング

## 【概要】

### ★開発コストの最適化を考える★

このコースは、基本設計のあるべき姿を見つめなおし、設計品質向上につなげるヒントを、自らディスカッションを通して探し出すことを目的とするワークショップです。

基本設計は、システムへの要件をシステムの仕様に落とす作業です。基本設計の品質が悪いと、要件で提示されたことが抜け落ちる、作成されたシステムの品質が悪い、開発の見積（コスト、期間）が合わない、など、さまざまな問題が発生します。

この講座では、品質ギャップの解消に向けて必要なことを自ら探すことによって、意識改革やスキル獲得につなげます。

※この講座では講師が何かを教えるわけではありません。受講者が自らワークショップのなかでディスカッションを重ね、自分に合ったヒントを見つけ出します。

## 【受講後の効果】

- 基本設計のあるべき姿についてのディスカッションを通して、設計品質向上の考え方を身につける

対象者	• 基本設計の品質向上のポイントを探したい方
前提知識	• 基本設計（外部設計）の経験
注意事項	

レベル感	中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	QE010S

## 講義内容

1. 品質意識確認テスト  
•最初に自己の品質意識を計るテストを受け、品質意識のレベルを確認
2. 設計品質ワークショップ  
•テーマに従って、あるべき品質の姿と、現在の活動のギャップを明確にし、ディスカッションを通して解決の方向性を探る
  - 基本設計のゴール
  - 機能の洗い出し
  - データ設計
  - 画面設計
  - トレーサビリティ
  - 標準化
3. 振り返り  
•一日のワークショップを振り返り、自らの設計品質向上への方向性を確認

※内容は変更になる場合もあります。

# 設計品質ワークショップ【詳細設計編】 ～非機能品質の作り込みを考える～

エンジニアリング

## 【概要】

### ★非機能品質の作り込みを考える★

このコースは、詳細設計のあるべき姿を見つめなおし、設計品質向上につなげるヒントを、自らディスカッションを通して探し出すことを目的とするワークショップです。

詳細設計は、システムの仕様を実装に落とす方法を考える作業です。この作業のなかでは、さまざまな非機能（性能、セキュリティ、保守性）を考慮する必要があります。

しかし、実際の開発現場では、工数削減の号令の下、詳細設計における考慮をおろそかにしたり、あるいは一部のアーキテクトだけにおしつけて、その結果、詳細設計品質が確保されないまま開発が進んでいるという例が散見されます。

※この講座では講師が何かを教えるわけではありません。受講者が自らワークショップのなかでディスカッションを重ね、自分に合ったヒントを見つけ出します。

## 【受講後の効果】

- 詳細設計のあるべき姿についてのディスカッションを通して、設計品質向上の考え方を身につける

対象者	• 詳細設計の品質向上のポイントを探したい方
前提知識	• 詳細設計（内部設計モジュール設計）の経験
注意事項	

レベル感	中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QE011S

## 講義内容

### 1. 品質意識確認テスト

• 最初に自己の品質意識を計るテストを受け、品質意識のレベルを確認

### 2. 設計品質ワークショップ

• テーマに従って、あるべき品質の姿と、現在の活動のギャップを明確にし、ディスカッションを通して解決の方向性を探る

- 詳細設計で実現すべきこと
- インターフェイス
- 状態遷移
- データベース
- セキュリティ
- 関数・メソッド

### 3. 振り返り

• 一日のワークショップを振り返り、自らの設計品質向上への方向性を確認

※内容は変更になる場合もあります。

# 設計品質ワークショップ【プログラム設計編】

## ～保守性の高いソースコードを考える～

エンジニアリング

### 【概要】

#### ★保守性の高いソースコードを考える★

このコースは、プログラム設計のあるべき姿を見つめなおし、設計品質向上につながるヒントを、自らディスカッションを通して探し出すことを目的とするワークショップです。

システムは開発して終わりではなく、継続して保守をしながら次の世代に引き継いでいくものとなっています。プログラム設計では、機能の実現と同時に保守性の確保を考えていく必要があります。

しかし、実際の開発現場では、工数削減の号令の下、プログラム設計における考慮をおろそかにしたり、あるいはプログラマーまかせにしてレビューで指摘することもなく、その結果、プログラム設計品質が確保されないまま開発が進んでいるという例が散見されます。

※この講座では講師が何かを教えるわけではありません。

受講者が自らワークショップのなかでディスカッションを重ね、自分に合ったヒントを見つけ出します。

### 【受講後の効果】

- プログラム設計のあるべき姿についてのディスカッションを通して、設計品質向上の考え方を身につける

対象者	• プログラム設計の品質向上のポイントを探したい方
前提知識	• プログラム設計またはレビューの経験
注意事項	

レベル感	中級
講座時間	13:00 – 17:00
講座コード	QE020H

### 講義内容

#### 1. 品質意識確認テスト

- 最初に自己の品質意識を計るテストを受け、品質意識のレベルを確認

#### 2. 設計品質ワークショップ

- テーマに従って、あるべき品質の姿と、現在の活動のギャップを明確にし、ディスカッションを通して解決の方向性を探る
  - プログラム設計で実現すべきこと
  - コーディング規約
  - コードメトリクス
  - ロバストネス・セキュリティ
  - テスタビリティ

#### 3. 振り返り

- 一日のワークショップを振り返り、自らの設計品質向上への方向性を確認

※内容は変更になる場合もあります。

# テスト観点のつくり方 ～ゼロから導くテストの切り口～

## 【概要】

本講座では、テスト観点の全般的な考え方と、その活用方法を学びます。

ソフトウェアテストの設計において意識すべき確認ポイントを事前に整理しておくことは、効率的で効果的なやり方です。一方で、時間をかけてテスト観点を作成しても、その効果があまり感じられないという人も多いのではないのでしょうか。

この講座では、身近な例を用いてテスト観点とはどういうものなのか、なぜ必要なのかを考え、テスト対象にアプローチする際の視点を整理していきます。そして、整理した視点からテスト観点を導き出し、どのように活用していくのかを演習を通して習得していきます。

「テスト観点」の基本を学びたい方、ソフトウェアテストにおいて確認すべきポイントを理解したい初心者の方にオススメの講座です。

## 【受講後の効果】

- テスト観点を理解して、テストの漏れを防ぐために活用できることを知る
- テスト観点を導き出し、整理して、ノウハウとしてのテスト観点を作成できるようになる
- テスト観点を活用して効率的なテスト設計ができるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• テスト観点とは一般的にどういうものなのかを知りたい方</li><li>• テスト観点をつくりたいが、どこから手をつけたら良いのかわからずお困りの方</li><li>• テスト観点をとりいれて、効率的効果的なテスト設計をしたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• ソフトウェアテストに関する基礎知識</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	QE012S

## 講義内容

1. テスト観点とは
  - テスト観点とは何かを身近な例を用いて学びます
2. テスト観点的作り方
  - テスト対象へのアプローチ方法や考え方を演習を通して学びます
3. テスト観点的活用
  - 作成したテスト観点的活用方法について学びます

※内容は変更になる場合もあります。

# AIテスト入門

## ～機械学習を実感するハンズオンつき～

エンジニアリング

### 【概要】

★AIベースのシステム品質にフォーカス★

本講座では、AIベースのシステムについて、さまざまな観点で品質の留意点を学びます。

また、ハンズオンで機械学習の様子を確認し、理解を深めます。

近年、AI技術が発達し、さまざまな領域でAIの利用が試みられています。

AIに求められる品質の議論は少し立ち遅れていましたが、整理が進み、2021年10月にはISTQB(\*)が「AIテスター認定試験」を開始しました。

講義では、このAIテスター認定試験のシラバスをカバーして、AIの品質を説明します。

従来のシステムにはない、AIならではの考慮事項を認識することで、これからのシステム企画・開発でご活用できる講座となっています。

(\*)International Software Testing Qualifications Board

### 【受講後の効果】

- AIシステムに求められる品質を理解できる
- AIシステムのテストに関する留意点を理解できる
- AIがどのように学習するかを確認し、学習品質向上の手法を確認できる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• AIシステムの品質やテストについて関心がある方</li><li>• これからAIシステムの企画・開発・テストに関わろうとする方</li><li>• AIについての基本知識を充実させたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 説明中一部、数学、統計学の内容が含まれます</li><li>• ソースコードを読むにはPython言語の知識が必要です</li></ul>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>• オンライン参加では、Google Colaboratoryを利用するため、Google ID (Gmailなど) が必要となります。</li></ul>

レベル感	中級・上級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QE014S

講義内容	
1. AIについて	
2. 品質特性	
3. 機械学習概説	
4. 機械学習のデータ	
5. 機能評価メトリクス	
6. AIシステムのテスト	
7. AI品質特性のテスト	
8. AIテストの技術	
9. AIシステムのテスト環境	
10. AIをつかったテスト	
※内容は変更になる場合もあります。	

# 金融機関のシステムに求められる安全対策基準

## ～元金融庁検査官が解説、注目度急上昇のクラウドのリスクについても解説～

マネジメント

### 【概要】

#### ★元金融庁検査官が解説★

本講座では、当局が金融機関に求めるFISC安全対策基準の内容を学びます。リスクベースアプローチやクラウドデータセンターに求められている安全対策の基準を身につけます。

我が国の金融システムは、年々急速に変化しています。特に、クラウドを含む外部委託の活用が急激に進展しています。

さらに、サイバー攻撃やマルウェア被害の増大などによりリスク環境はますます厳しさを増していることから、セキュリティ強化に向けた取組みがより一層求められており、対策を怠ると倍返しどころか、10倍のフォローが必要になります。

金融当局がシステムに求める安全対策の基準とセキュリティ強化の具体的な対策を、講義とワークショップを通して習得し、即業務でご活用いただける講座となっています。

### 【受講後の効果】

- 金融システムのセキュリティの現状を理解する
- 金融庁が求めるセキュリティ安全対策基準の全体像を理解する
- データセンターやクラウドにおいて、どのようなセキュリティ対策を実施すれば良いのかを理解する

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>金融機関で、金融システムに関わる方</li><li>金融システムの企画開発を担当する方</li><li>金融システムの運用に関わる方</li><li>システムのセキュリティについて学びたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	中級・上級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QE015S

### 講義内容

- ITガバナンスとは
  - 金融当局が金融機関に求めるITガバナンスとはどのようなものなのか
- 関係者の役割について
  - 情報システムの安全対策に携わる関係者の役割について
- リスクベースアプローチとは
  - リスクベースアプローチとは
- 安全対策基準について
  - 安全対策基準～ルールと具体的な実務について
- データセンター設備について
  - 金融機関向けデータセンターに求められる設備について
- クラウドの導入と運用について
  - クラウドの導入と運用について

※内容は変更になる場合もあります。

# UAT計画の作成・活用実践 ～プロジェクトの成功を握るUAT計画の立案～

エンジニアリング

## 【概要】

UATはプロジェクトの最後、システム納品にも関わるフェーズであり、今後システムを運用していけるのかという目線でもとても重要なポイントが含まれています。ただ、UAT実施の際にそのポイントを知らずに推進し、システムの運用開始後にUATで発見できてであろうトラブルが発生しているプロジェクトも後を絶ちません。

最終的にシステムの品質を担保するのはこのUATフェーズとなるので、プロジェクト推進においても要となる部分です。

本講座では、一般的なUAT知識はもちろん、実際の現場でどのように動くべきかななどを体系的に学ぶことで、UATひいてはシステム運用までをスムーズに推進しプロジェクトを成功に導ける人材を育てます。

## 【受講後の効果】

- UATの目的を理解し発注者と開発者の役割の違いを理解できる
- UATに関する計画を作成できるようになる
- UATを実施する中で品質を考慮しながら推進することができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• UATの明確な項目基準や関係者の役割分担を明確にしたい方</li><li>• UATの計画作成、実施、推進にあたって課題がある方</li><li>• システムの運用開始後に業務運用に影響がある障害を経験したことがある方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	13:30 – 16:30
講座コード	QE016S

## 講義内容

### 【受け入れテストの考え方】

- なぜ受け入れテストが必要なのか
- 受け入れテストの目的
- 受け入れテストでやること
- 品質の考え方

### 【テスト計画の作成】

- 範囲の特定
- 合格基準の考え方
- 優先順位の設定
- 役割分担・開発ベンダへの依頼
- スケジュール・要員の考え方

### 【受け入れテストの作成】

- 業務フローの理解
- 設計書の整理
- 総合テストシナリオの整理
- 運用想定書の整理
- 仕様書の作成

### 【受け入れテストの実施】

- 進捗管理・品質管理
- 確認するポイント

※内容は変更になる場合もあります。

# UATシナリオ作成実践 ～運用開始後のトラブルを無くすUATシナリオの作成手法～

エンジニアリング

## 【概要】

UAT（ユーザー受け入れテスト）の成否は、抜け漏れのない高品質な「テストシナリオ」と「仕様書」にかかっていると言っても過言ではありません。しかし、実際の現場では、観点が不足していたり、開発者と利用者の認識が異なったままテストが進み、結果として本番稼働後に手戻りやトラブルが発生するケースが散見されます。

本講座では、質の高いテストシナリオ・仕様書を作成するために不可欠な「テスト観点の洗い出し」「業務フローの読解」「効果的なドキュメント作成術」を実践的に学びます。インプット資料から抜け漏れなくテストケースを設計し、誰が見ても明確な仕様書を作成するスキルを習得することで、UATの品質を高め、システムの安定稼働に直接貢献できる担当者を育成します。

## 【受講後の効果】

- UATの目的を理解し発注者と開発者の役割の違いを理解できる
- UATに関するテストシナリオ作成から仕様書の作成ができるようになる
- UATを実施する中で品質を考慮しながら推進することができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• UATの明確な項目基準や関係者の役割分担を明確にしたい方</li><li>• UATの計画作成、実施、推進にあたって課題がある方</li><li>• システムの運用開始後に業務運用に影響がある障害を経験したことがある方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	13:30 – 16:30
講座コード	QE017S

## 講義内容

### 【受け入れテストの考え方・シナリオ作成の準備】

- 受け入れテストとは
- 受け入れテストで実施するテストの内容
- 受け入れテストのインプット資料
- 業務フロー・要求定義書の理解
- 受け入れテストの観点
- スcope・優先度の確認
- テストの推進
- テスト結果の評価

### 【テストシナリオ作成・実施】

- 受け入れテストシナリオの作成
- 受け入れテスト仕様書の作成
- テストデータ準備に向けて
- テストの抜け漏れがないという事こと
- 総合テスト・運用テストとの違い
- 受け入れテストの組み立て方を理解しよう

※内容は変更になる場合もあります。

# TDDテスト駆動開発 ～TDDの体験とともに、よりよいテストの書き方、よりよいリファクタリングの進め方を習得～

エンジニアリング

## 【概要】

★TDDはきれいなソースコード書くための手順の提案です★  
テスト駆動開発（TDD）は、自動化されたユニットテストとプロダクトコードの開発を行き来することで、プログラムの設計品質を高める方法論です。サイクルのなかでリファクタリングを行うことで、試行錯誤を繰り返してよりよい設計を検討していきます。

TDDはプログラミングテクニックを磨く修練です！  
設計を見直しつづけることによって、最終形のソースコードを美しくっていく方法論です。目の前のプログラム開発だけではなく、将来まで長くつかえるプログラム設計力を身につけたい方にオススメです。

本講座では、TDDの体験とともに、よりよいテストの書き方、よりよいリファクタリングの進め方をお伝えします。  
プログラム設計力を向上を目指す開発者にとって、有用な内容となっています。

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>プログラム設計力の向上を目指す開発者</li><li>自動テストを開発に組み込みたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>プログラム開発の経験（Java）のある方 ユニットテストの知識（概要レベル）のある方</li></ul>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>本講座ではリモートデスクトップを利用した演習を行うため、オンライン参加の場合、30分ごとに再接続が必要になるなど少々制約が発生いたします。</li><li>そのため、東京近郊にお住まいの方には会場参加を推奨いたします。</li><li>お住まいの地域、その他の事情によりオンライン参加をご希望の方は、若干ご不便をおかけいたしますが、「オンライン受講にあたって」の「ハンズオン環境について」で環境等をご確認のうえ、お申し込みください。</li></ul>

レベル感	中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QE008SJ

講義内容	
1. 自動テスト概論	<ul style="list-style-type: none"><li>自動テストの状況</li><li>ユニットテスト</li></ul>
2. テストコードのマナー	<ul style="list-style-type: none"><li>テストコードで守るべきマナー</li></ul>
3. TDDのポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>TDDの基本的な進め方</li><li>TDDの応用</li></ul>
4. リファクタリングの実践	<ul style="list-style-type: none"><li>リファクタリングのポイント</li><li>リファクタリングの実施例</li></ul>
5. TDD演習	<ul style="list-style-type: none"><li>TDDの進め方確認</li></ul>
※内容は変更になる場合もあります。	

## 【受講後の効果】

- テスト駆動開発の手順を理解し、実施できる
- よりよいユニットテストを書くことができる
- 日々の開発においてリファクタリングを繰り返すことによって、プログラム設計力の向上に継続的にとりくむことができる

## 【概要】

★TDDはきれいなソースコード書くための手順の提案です★  
 テスト駆動開発（TDD）は、自動化されたユニットテストとプロダクトコードの開発を行き来することで、プログラムの設計品質を高める方法論です。サイクルのなかでリファクタリングを行うことで、試行錯誤を繰り返してよりよい設計を検討していきます。

TDDはプログラミングテクニックを磨く修練です！  
 設計を見直しつつけることによって、最終形のソースコードを美しくっていく方法論です。  
 目の前のプログラム開発だけではなく、将来まで長くつかえるプログラム設計力を身につけたい方にオススメです。

本講座では、TDDの体験とともに、よりよいテストの書き方、よりよいリファクタリングの進め方をお伝えします。  
 プログラム設計力を向上を目指す開発者にとって、有用な内容となっています。

## 【受講後の効果】

- テスト駆動開発の手順を理解し、実施できる
- よりよいユニットテストを書くことができる
- 日々の開発においてリファクタリングを繰り返すことによって、プログラム設計力の向上に継続的にとりくむことができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プログラム設計力の向上を目指す開発者</li> <li>• 自動テストを開発に組み込みたい方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プログラム開発の経験（C#）のある方</li> <li>• ユニットテストの知識（概要レベル）のある方</li> </ul>
注意事項	Pythonパブリックリポジトリへのアクセスを行います。 企業研修の場合は、ネットワーク環境をご確認ください。

レベル感	中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	QE008SC

講義内容	
1. 自動テスト概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自動テストの状況</li> <li>• ユニットテスト</li> </ul>
2. テストコードのマナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• テストコードで守るべきマナー</li> </ul>
3. TDDのポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TDDの基本的な進め方</li> <li>• TDDの応用</li> </ul>
4. リファクタリングの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リファクタリングのポイント</li> <li>• リファクタリングの実施例</li> </ul>
5. TDD演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TDDの進め方確認</li> </ul>
※内容は変更になる場合もあります。	

## 【概要】

★TDDはきれいなソースコード書くための手順の提案です★  
 テスト駆動開発（TDD）は、自動化されたユニットテストとプロダクトコードの開発を行き来することで、プログラムの設計品質を高める方法論です。サイクルのなかでリファクタリングを行うことで、試行錯誤を繰り返してよりよい設計を検討していきます。

TDDはプログラミングテクニックを磨く修練です！  
 設計を見直しつつけることによって、最終形のソースコードを美しくっていく方法論です。  
 目の前のプログラム開発だけではなく、将来まで長くつかえるプログラム設計力を身につけたい方にオススメです。

本講座では、TDDの体験とともに、よりよいテストの書き方、よりよいリファクタリングの進め方をお伝えします。  
 プログラム設計力を向上を目指す開発者にとって、有用な内容となっています。

## 【受講後の効果】

- テスト駆動開発の手順を理解し、実施できる
- よりよいユニットテストを書くことができる
- 日々の開発においてリファクタリングを繰り返すことによって、プログラム設計力の向上に継続的にとりくむことができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プログラム設計力の向上を目指す開発者</li> <li>• 自動テストを開発に組み込みたい方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プログラム開発の経験（Python）のある方</li> <li>• ユニットテストの知識（概要レベル）のある方</li> </ul>
注意事項	

レベル感	中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	QE008SP

講義内容	
1. 自動テスト概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自動テストの状況</li> <li>• ユニットテスト</li> </ul>
2. テストコードのマナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• テストコードで守るべきマナー</li> </ul>
3. TDDのポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TDDの基本的な進め方</li> <li>• TDDの応用</li> </ul>
4. リファクタリングの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リファクタリングのポイント</li> <li>• リファクタリングの実施例</li> </ul>
5. TDD演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TDDの進め方確認</li> </ul>
※内容は変更になる場合もあります。	

# コンポーネントテスト【Java編】

## ～JUnitを使って学ぶ単体テストのツボ～

エンジニアリング

### 【概要】

#### ★単体テストを学ぼう★

本講座では、コンポーネントテスト（単体テスト、APIテスト）を、JUnitを利用した自動テストで実装する方法を学びます。  
あわせて、コンポーネントテストを容易に実装するための、「保守性」を向上するプログラム設計のポイントを確認します。

単体テストにも体系だったスキルが必要です。プログラミング研修とは違ったテスト研修を受講してみてもいいでしょうか。  
近年JUnitなどの開発環境が整ってきて、コンポーネントテストを自動化することが非常に容易になってきました。  
また、アジャイル開発を行う場合には、コンポーネントテスト自動化のスキルは必須と言えるでしょう。

今こそ、コンポーネントテストの自動化にとりくむべき時です。新人からベテランまで、単体テストに不安をもつあらゆる方にオススメの講座です。

### 【受講後の効果】

- JUnitを利用して単体テスト、APIテストを実装できる
- 試験性の向上を考えて、プログラム設計を補正できる
- モックを利用して、環境依存部分を排除したテストを実装できる
- 制御網羅を確認して、単体テストを作成できる

対象者	• コンポーネントテストの基本的な実装方法を学びたい方
前提知識	• Javaプログラミングができること
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QE013SJ

### 講義内容

1. コンポーネントテストとは
  - コンポーネントテストの位置づけ
  - レビューとテストの補完関係
  - コンポーネントテストの対象範囲
2. JUnitをつかったテスト
  - JUnitとは
  - JUnitをつかってみよう
  - 演習：JUnitに慣れよう
3. JUnitの効率的なつかい方
  - テストの順序
  - 循環参照の解消
  - 入出力のテスト（演習含む）
4. モックをつかったテスト
  - モックをつかう理由
  - 環境依存テストの考え方
  - 演習：モックをつかったテスト
5. ホワイトボックステスト
  - ホワイトボックスにおける網羅性
  - ホワイトボックステストのポイント
  - 演習：網羅性を確認してユニットテストを作成

※内容は変更になる場合もあります。

## 【概要】

本講座では、コンポーネントテスト（単体テスト、APIテスト）を、MSTestを利用した自動テストで実装する方法を学び、演習により身につけます。

あわせて、コンポーネントテストを容易に実装するための、「保守性」を向上するプログラム設計のポイントを確認します。

単体テストが思うようにできない、単体品質が上がらない、そんな悩みをおもちの方はいませんか？

単体テストにも、体系だったスキルが必要です。プログラミング研修とは違ったテスト研修を必要としていませんか？

特にアジャイル開発を行う場合には、コンポーネントテスト自動化のスキルは必須と言えるでしょう。

今こそ、コンポーネントテストの自動化にとりくむべき時です。新人からベテランまで、単体テストに不安をもつあらゆる方にオススメの講座です。

## 【受講後の効果】

- MSTestを利用して単体テスト、APIテストを実装できる
- 試験性の向上を考えて、プログラム設計を補正できる
- モックを利用して、環境依存部分を排除したテストを実装できる
- 制御網羅を確認して、単体テストを作成できる

対象者	• コンポーネントテストの基本的な実装方法を学びたい方
前提知識	• C#プログラミングができること
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QE013SC

## 講義内容

1. コンポーネントテストとは
  - コンポーネントテストの位置づけ
  - レビューとテストの補完関係
  - コンポーネントテストの対象範囲
2. MSTestをつかったテスト
  - MSTestとは
  - MSTestをつかってみよう
  - 演習：MSTestに慣れよう
3. MSTestの効率的なつかい方
  - テストの順序
  - 循環参照の解消
  - 入出力のテスト（演習含む）
4. モックをつかったテスト
  - モックをつかう理由
  - 環境依存テストの考え方
  - 演習：モックをつかったテスト
5. ホワイトボックステスト
  - ホワイトボックスにおける網羅性
  - ホワイトボックステストのポイント
  - 演習：網羅性を確認してユニットテストを作成

※内容は変更になる場合もあります。

## 【概要】

本講座では、コンポーネントテスト（単体テスト、APIテスト）を、pytestを利用した自動テストで実装する方法を学び、演習により身につけます。あわせて、コンポーネントテストを容易に実装するための、「保守性」を向上するプログラム設計のポイントを確認します。

単体テストが思うようにできない、単体品質が上がらない、そんな悩みをおもちの方はいませんか？

単体テストにも、体系だったスキルが必要です。プログラミング研修とは違ったテスト研修を必要としていませんか？

特にアジャイル開発を行う場合には、コンポーネントテスト自動化のスキルは必須と言えるでしょう。

今こそ、コンポーネントテストの自動化にとりくむべき時です。新人からベテランまで、単体テストに不安をもつあらゆる方にオススメの講座です。

## 【受講後の効果】

- pytestを利用して単体テスト、APIテストを実装できる
- 試験性の向上を考えて、プログラム設計を補正できる
- モックを利用して、環境依存部分を排除したテストを実装できる
- 制御網羅を確認して、単体テストを作成できる

対象者	• コンポーネントテストの基本的な実装方法を学びたい方
前提知識	• Pythonプログラミングができること
注意事項	Pythonパブリックリポジトリへのアクセスを行います。 企業研修の場合は、ネットワーク環境をご確認ください。

レベル感	初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QE013SP

## 講義内容

1. コンポーネントテストとは
  - コンポーネントテストの位置づけ
  - レビューとテストの補完関係
  - コンポーネントテストの対象範囲
2. pytestをつかったテスト
  - pytestとは
  - pytestをつかってみよう
  - 演習：pytestに慣れよう
3. pytestの効率的なつかい方
  - テストの順序
  - 循環参照の解消
  - 入出力のテスト（演習含む）
4. モックをつかったテスト
  - モックをつかう理由
  - 環境依存テストの考え方
  - 演習：モックをつかったテスト
5. ホワイトボックステスト
  - ホワイトボックスにおける網羅性
  - ホワイトボックステストのポイント
  - 演習：網羅性を確認してユニットテストを作成

※内容は変更になる場合もあります。

## 【概要】

ソフトウェアテストの基礎から、機能テストやシナリオテストの設計の基礎まで1日で速習する講座です。

## 【受講後の効果】

- ソフトウェアテストの目的や考え方の基礎を理解する
- テスト観点について理解する
- 機能テストとシナリオテストの設計方法を理解する

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>• システム開発業界の未経験者、初心者</li> <li>• テスト設計をこれから担当する方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 特にございません</li> </ul>
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	9:00 – 17:00
講座コード	QE018S

## 講義内容

1. 品質を考える
  - ソフトウェアテストの目的
  - ソフトウェアテストの役割
  - 組織／役割ごとの品質に対する期待
2. テスト業務の技法（機能テストの目的）
  - テストプロセス
  - テスト計画・テスト分析
  - (プチ演習)ウォーミングアップ
3. テスト業務の技法（条件組み合わせ）
  - テスト設計書フォーマット
  - テスト観点とは？
  - 実行パターン
  - (プチ演習)パターン数
  - 因子・水準
  - (演習)パターン表作成実践
  - 組み合わせ削減手法
4. テスト設計の技法（シナリオテスト）
  - シナリオテストとは何でしょうか？
  - シナリオテストのテストベースについて
  - テスト設計書（シナリオテスト）を作成する
  - テスト設計書フォーマット（シナリオテスト）
  - (演習)シナリオフローの作成
  - (演習)シナリオテスト手順書の作成

※内容は変更になる場合もあります。

## 【概要】

ソフトウェアテストをベンダーまかせにしていますか？  
 ベンダーのテスト計画に思いつくままコメントをいませんか？  
 発注者がソフトウェアテストについて正しい知識を持つことは、システムの成否に大きく影響します。

本講座では、発注者に必要な知識をまとめて解説します。

## 【受講後の効果】

- ソフトウェアテストの目的や考え方の基礎を理解する
- テスト設計の基礎を理解する
- 受入テストと他のテストとの違いを理解する

対象者	• 社内IT部門など、発注側の立場で自社システムの開発に携わる方
前提知識	• 特にございません
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	QE019S

講義内容	
1. 品質を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ソフトウェアテストの目的</li> </ul>
2. テスト業務の技法（機能テストの目的）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• テストプロセス</li> <li>• テスト計画・テスト分析</li> <li>• (プチ演習)ウォーミングアップ</li> </ul>
3. テスト業務の技法（条件組み合わせ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• テスト観点とは？</li> <li>• 実行パターン</li> <li>• (プチ演習)パターン数</li> <li>• 因子・水準</li> <li>• (演習)パターン表作成実践</li> <li>• 組み合わせ削減手法</li> </ul>
4. テスト設計の技法（シナリオテスト）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シナリオテストとは何でしょうか？</li> <li>• テスト設計書（シナリオテスト）を作成する</li> <li>• テスト設計書フォーマット（シナリオテスト）</li> <li>• (演習)シナリオフローの作成</li> <li>• (演習)シナリオテスト手順書の作成</li> </ul>
5. 受入テストについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 受入テストで確認すること</li> <li>• 受入テストの注意点</li> <li>• 受入テスト計画の作成</li> </ul>
※内容は変更になる場合もあります。	

# テスト計画

## ～成功するためのテスト方針／工数見積りの極意を伝授～

PDU対象  
マネジメント

### 【概要】

#### ★テストマネジメントの人気講座★

本講座では、テスト計画書に記載すべき項目を1つひとつ解説したうえで、ソフトウェアテストを計画する際にポイントとなる「テストアプローチ」と「テスト工数見積り」に焦点をあて、その実施ノウハウを学びます。

テストを予定通りに進めるためには、プロジェクト事情を意識してテスト内容を調整して、それを実施するための工数を予測することが重要です。

- ・システムの特徴やプロジェクトの制約に応じたテスト方針を立てるにはどうしたらいいのか
- ・限られた情報しかないなかで、どうやってテスト工数を見積ればいいのか

このようなことを演習やケーススタディのなかで解決し、その手法を身につけていきます。

本講座はPDU(\*1)取得対象講座であり、6PDU（Ways/Working:3、PowerSkills:1、Business:2）の取得が可能です。

(\*1)PDUとは、世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIが認定する国際資格「PMP（Project Management Professional）」の維持に必要な学習単位です。

### 【受講後の効果】

- ・ 対象システムの特徴やプロジェクトの制約に応じたテスト方針の立案（テストアプローチ）ができるようになる
- ・ 限られた情報のなかで最適なテスト工数見積りができるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各々のプロジェクトが持つ特徴や制約に即した効率的かつ効果的なテスト方針を立案したい方</li><li>・ 限られた情報の中でも適用できるテスト工数見積手法を身につけたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QM001S

### 講義内容

1. テスト計画とテストアプローチの基礎
  - ・ テスト計画の定義
  - ・ テスト計画の内容
  - ・ テストアプローチ
  - ・ (演習) ケーススタディ
2. テストアプローチの実践
  - ・ テストレベル
  - ・ テストタイプ
  - ・ 品質特性とテストタイプ
  - ・ (演習) テストアプローチの立案
  - ・ (参考) アジャイル開発におけるテスト計画
3. テスト見積りの基礎
  - ・ 見積りとは
  - ・ テスト見積り手法
4. テスト見積りの実践
  - ・ (演習) テスト見積り
  - ・ (演習) ケーススタディ
  - ・ テスト見積りに影響するもの
  - ・ (参考) アジャイル開発における見積り
5. テスト見積り精度の向上・改善
  - ・ (演習) ケーススタディ

※内容は変更になる場合もあります。

### 【概要】

本講座では、SHIFTで使用している手法やSHIFTのノウハウを元に、ソフトウェアテストの実行手法や管理ノウハウを解説します。

事前に準備すべき3項目、チーム体制づくりのポイント、テスト実行時の留意点や各種Tipsなど、テストの現場で求められる知識を講座と演習やケーススタディを通じて、習得し理解を深めていきます。

これからテスト管理に携わるとい方や、次のような問題への実践的な対処法を学びたいという方にたいへんオススメの講座です。

- ・テストの進捗状況をどう可視化するのか
- ・異常をいちはやく察知し対処するにはどうすればいいのか
- ・計画変更要請に対してどう対応していくのか

本講座はPDU(\*1)取得対象講座であり、6PDU（Ways/Working:2、PowerSkills:3、Business:1）の取得が可能です。

(\*1)PDUとは、世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIが認定する国際資格「PMP（Project Management Professional）」の維持に必要な学習単位です。

### 【受講後の効果】

- ・テスト実行時の進捗を監視し、計画との差異を速やかに検知し報告することができる
- ・変更管理手法を身につけ、テスト実行計画の見直しができる
- ・テスト実行時の留意点を踏まえた的確なテスト実行推進ができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テスト実行フェーズに求められるテスト管理のノウハウを学びたい方</li> <li>・ テスト実行時に発生する諸問題の対応策を具体的事例を通して学びたい方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特にございません</li> </ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	QM002S

講義内容	
1.テストの目的と本講座の範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトウェアテストの目的</li> <li>・本講座の範囲</li> </ul>
2.テスト実行管理・・・3つの肝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QCDを管理し、完了報告ができる</li> <li>・数値報告をエスカレーションできる</li> <li>・変更管理ができ、計画見直しができる</li> </ul>
3.テスト実行準備・実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト実行前に準備すること</li> <li>・テスト体制構築</li> <li>・テスト実施スケジュール作成のポイント</li> <li>・テスト実施可能判定</li> </ul>
4.テスト実行管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト実行管理とは</li> <li>・進捗管理</li> </ul>
5.テスト実行ケーススタディ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト実行管理（トラブル対応）</li> <li>・モチベーション管理</li> <li>・フェーズ終了判定・品質チェック</li> </ul>
6.その他の考慮点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト事項化による効率化</li> <li>・スマホ・テストに関する考慮点</li> <li>・アドホックテストに関する考慮点</li> </ul>
※内容は変更になる場合もあります。	

# 不具合分析 ～ソフトウェア障害報告や不具合データの分析と対策、 今後の改善に活かす方法を伝授～

PDU対象  
マネジメント

## 【概要】

本講座では、品質保証の「方法論」の一つであるソフトウェアの「不具合分析」を学びます。

SHIFTの「不具合分析ノウハウ」をもとに、トータル品質を向上させることを目的として、不具合データの分析手法、不具合原因の深掘り手法を身につけます。

バグを見つけてもそのままにしまい、次も同じバグが繰り返していませんか？ 重大なバグが発生し、その原因を追及し対策を講じてもまた再発していませんか？

本講座では、不具合データをどのように活用するのか、不具合の原因を忖度なく深掘りするにはどうしたらよいかについて、学んでいただきます。さらには、不具合分析～対策立案を行う際の落とし穴や不具合分析をより効果的に行うためのノウハウをケーススタディの中で理解することができます。

本講座はPDU(\*1)取得対象講座であり、6PDU（Ways/Working:4、PowerSkills:1、Business:1）の取得が可能です。

(\*1)PDUとは、世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIが認定する国際資格「PMP（Project Management Professional）」の維持に必要な学習単位です。

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトウェアの不具合分析を効果的にしたい、分析結果をうまく活用したいとお考えの方</li> <li>不具合の原因を網羅的かつ忖度なく深掘りするスキルを身につけたいとお考えの方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報システムの企画、開発、運用、品質管理などに何かしらかかわったことのある方</li> </ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	QM003S

## 講義内容

- 不具合分析の基礎
  - 不具合分析の定義と目的を学ぶ
  - 不具合分析に必要な情報を考える
- 不具合分析 – データから分析
  - 分析するメトリクスを考える
  - 機能別の品質を分析してみる
  - 弱点は何かを分析してみる
- 不具合分析 – 原因分析と対策立案
  - 原因分析時の落とし穴をケーススタディで学ぶ
  - 根本原因までたどり着くための手法を学ぶ
  - 再発防止策を考えてみる
- 不具合分析の改善・適用
  - 不具合分析プロセスの改善手法を学ぶ
  - ツールの紹介

※内容は変更になる場合もあります。

## 【受講後の効果】

- 不具合データを分析できるようになる
- 不具合の原因を網羅的にかつ忖度なく深掘りできるようになる
- 不具合分析をより効果的に改善することができるようになる

# テストプロセス改善 ～TPI NEXTを活用した評価・改善案策定を一日で伝授～

マネジメント

## 【概要】

ソフトウェアテスト作業の品質を向上させる鍵となる、テストプロセス改善を推進するために必要となる知識習得を目的とする講座です。

TPI NEXTとは、世界中のテスト現場で適用されているテストプロセス改善手法であり、単なるテストの技術面、管理面だけでなく、組織内でのテストに対する考え方や顧客との関係を重視することで、現場のテストプロセスを現場の人たち自身で改善していくことが可能となります。

講座では、プロセス改善を推進モデルのTPI NEXTを取り上げ、ご自身のテストプロジェクトの作業評価を行い、改善計画を立案するまでの一連の演習を行います。

講師には「TPI NEXT日本語版」の訳者であり、日本の第一人者である  
藪田和夫氏にご登壇いただきます。

経験豊富な講師のお話を聞ける大変貴重な講義となっております。

※本ページでは「TPI NEXT」と簡易表記しております。正式表記は「TPI NEXT®」となります。

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• テストの品質を向上させたいと考えているリーダー、マネージャーの方</li><li>• 品質向上のためにプロセス改善を検討している方</li><li>• テストプロセス改善にご興味のある方</li><li>• 既に開発プロセス改善を手掛けられておられる方</li></ul>
前提知識	
注意事項	

レベル感	上級
講座時間	10:00 – 19:00
講座コード	QM004S

## 講義内容

1. ソフトウェアテスト技術の標準化動向とTPI NEXTの位置づけ
2. TPI NEXTキーエリアとチェックポイント
  - 利害関係者との関係  
(解説、自己評価、GP討議、発表)
  - テスト管理 (理解と自己評価、GP討議)
  - テスト業務の専門性 (理解と自己評価、GP討議、発表)
3. 実施計画の立案と実施、改善計画の立案
  - 評価、改善計画、およびカスタマイズ (SWOT) の解説
  - 改善計画の導出 (自己分析、GP討議、発表)
4. まとめ

※内容は変更になる場合もあります。

## 【受講後の効果】

- ソフトウェアテストに関する様々な標準モデルとTPI NEXTの位置づけを習得する
- TPI NEXTモデルの基本的な構造を習得する
- TPI NEXTのキーエリアチェックポイントの理解と評価方法を習得する
- TPI NEXTを使ったプロセス改善実施計画の立案方法を習得する

# テスト戦略 ～テスト計画に繋がる具体的な戦略立案の肝～

PDU対象  
マネジメント

## 【概要】

### ★マネジメントの先へ★

本講座では、品質保証の「方法論」の一つである「テスト戦略」の考え方を学んでいただきます。  
テスト全体を俯瞰して、品質リスクや課題を解決するための具体的なアプローチを立案、実施するスキルを身につけます。

過去のテストの工数配分を漠然と踏襲してしまい、品質がなかなか上がらないループに陥っていませんか？  
どうすれば効果的なテストを計画的に進めることができるのか、という課題をおもちの方にオススメの講座となっております。

本講座では、テスト戦略基礎を学習し、実際にテスト戦略を立案する事で、品質向上の戦略アプローチを学びます。  
テスト全体を俯瞰して、品質リスクや課題を解決するための具体的なアプローチを立案、実施するためのポイントを余すところなく伝授いたします。

本講座はPDU(\*1)取得対象講座であり、6PDU（Ways/Working:2、PowerSkills:1、Business:3）の取得が可能です。

(\*1)PDUとは、世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIが認定する国際資格「PMP（Project Management Professional）」の維持に必要な学習単位です。

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>テストを戦略的に取り組みたいが具体的な方法がわからずお困りの方</li> <li>アドホック的で非効率なテスト推進を改善したい方</li> <li>品質向上の戦略アプローチとして、有効な選択肢を増やしたい方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の講座を受講済であることが望ましい - テスト計画</li> </ul>
注意事項	

レベル感	中級・上級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QM005S
講義内容	
<ol style="list-style-type: none"> <li>テスト戦略入門 <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト戦略プロセス</li> <li>テストに求められること</li> <li>テスト戦略で考えること</li> <li>(演習) テスト戦略を考える</li> </ul> </li> <li>7つのテスト戦略 <ul style="list-style-type: none"> <li>テストの基本7戦略</li> <li>(演習) 基本戦略の活用</li> <li>活用例：リスクベースドテスト</li> <li>活用例：テスト自動化</li> <li>活用例：ソフトウェアレビュー</li> </ul> </li> <li>アジャイルテストとWebテスト <ul style="list-style-type: none"> <li>戦略の応用組み合わせ</li> <li>アジャイル開発テスト</li> <li>Web開発のテスト</li> </ul> </li> <li>テスト戦略立案 <ul style="list-style-type: none"> <li>(演習) ケーススタディ</li> <li>まとめ</li> </ul> </li> </ol> <p>※内容は変更になる場合もあります。</p>	

## 【受講後の効果】

- プロジェクト全体を通してのテスト戦略を立案できる
- テスト工程横断の最適化を考えることができる

# 希望がもてるITサービスの考え方 ～企画・開発・運用を通じた改善活動～

マネジメント

## 【概要】

本講座では、ITサービスの価値を向上させ、組織を進化させる考え方を学びます。

ITサービスでは、システム自体の品質だけでなく、リリース後の運用品質管理も重要になります。さらに、運用中に見つけた課題の対応や、次の企画に反映する改善活動も必要になってきます。

これには、アジャイルやDXの考え方が不可欠です。また、その対応するには、従来の感覚を飛び越えた組織づくりにも取り組んでいく必要があります。

本講座ではITサービスの価値や品質から考えてゆきます。この考え方はITサービスに限らず、組織の日常業務にも広く応用できます。

ITサービスを改善して利益を上げたい方、サービスを提供してお客様と末永くお付き合いしたい方、また、組織の業務改革を目指す幅広い方々にオススメの講座です。

## 【受講後の効果】

- サービスの評価改善の手法を理解する
- サービスの継続提供に必要な管理の観点を押さえて、運用に生かすことができる
- アジャイルやDXに向けて、組織をとりくむべきことを見出せるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• 広く受け入れられるITサービスを検討したい方</li><li>• ITサービスの企画開発運用を通じた品質向上を考えたい方</li><li>• アジャイルDX時代の組織づくりを考えたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特にございませ</li></ul>
注意事項	

レベル感	中級・上級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QM006S

## 講義内容

- 1.ITサービスの価値
  - ITサービスのあるべき姿を考えます。
- 2.ITサービスの運用
  - ITサービスの運用における考慮点を学びます。
- 3.ITサービスのライフサイクル
  - ITサービスの企画・開発・運用のライフサイクルの考慮点を学びます。
- 4.アジャイル・DXに向けたITサービス
  - これからのアジャイル・DX時代において、ITサービスをどのように考えるか、考え方やアプローチを学びます。

※内容は変更になる場合もあります。

# マスターテスト計画書の作成・活用実践 ～限られた期間／予算の中でどう品質を確保するか～

PDU対象  
マネジメント

## 【概要】

マスターテスト計画書の重要性を理解し、その内容を詳細に学びます。具体的には、ソフトウェアが抱える品質上のリスクをどうやって許容値まで下げていくのかを順を追って学んでいきます。さらに、マスターテスト計画書を個別のテスト計画にどう展開するのか、テストにおける進捗管理のポイントとは何か、テストで収集したデータをどう分析し活用していくのかについても学んでいただきます。

### ★以下のようなお悩みをおもちのチームにオススメです★

- ・開発遅延でテスト期間が圧縮され、十分なテストができないまま本番リリース。結果、重要機能で本番障害が発生！
- ・テストの段取りがいつも後手にまわってしまう。
- ・テストで学んだ教訓が次に活かせない。

本講座はPDU(\*1)取得対象講座であり、7PDU（Ways/Working:4、PowerSkills:1、Business:2）の取得が可能です。

(\*1)PDUとは、世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIが認定する国際資格「PMP（Project Management Professional）」の維持に必要な学習単位です。

## 【受講後の効果】

- ・マスターテスト計画書について詳細を理解し、実際にマスターテスト計画書を作成することができる
- ・テストレベル別の計画書が作成できる
- ・テスト業務をリードすることができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトウェアテストの管理推進に携わる方</li> <li>・マスターテスト計画書を作成し統制のとれたソフトウェアテストを実施したい方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトウェアの開発やテストの経験がある方もしくはその管理推進業務にたずさわったことのある方</li> </ul>
注意事項	

レベル感	中級・上級
講座時間	9:30 - 17:30
講座コード	QM009S

## 講義内容

### 1.はじめに

- ・マスターテスト計画書とは
  - ・テスト全体のプロセスとマスターテスト計画書の作成タイミング
- ### 2.インプットとするドキュメント

- ・マスターテスト計画書を作成するうえで参照する文書（開発プロジェクト計画書／要件定義書／品質標準類）について解説

### 3.マスターテスト計画書

- ・背景と目的、体制と役割分担
- ・テスト対象機能
  - 漏れのない洗い出しと品質リスクに基づく優先順位づけ

### 【演習】

- ・テストアプローチ
    - テストレベルとテストタイプの組み合わせ【演習】
    - テストベース／自動化方針／成果物定義
  - ・テストタスク（WBS）
  - ・開始基準と完了基準
  - ・スケジュール／資源／コスト／プロダクト品質とプロセス品質
  - ・リスク分析／その他管理ルール・手順
- ### 4.各テストレベル別の計画～実行推進～終了報告
- ・テストレベル別計画／方針の策定
  - ・進捗管理（ベースラインのモニタリングと対応）【演習4種】
  - ・課題管理とスコープ変更管理
  - ・テストレベル別の終了報告

※内容は変更になる場合もあります。

# テスト計画・管理【実技編】

## ～マネージャーのためのExcel 技～

マネジメント

### 【概要】

★計画・管理は数学モデル！★

本講座は、テスト工程について、より効率的な計画を立て、より正確に管理するための実技を身につける講座です。Excelをつかってテストの工数を詳細に計算し、それにもとづいてテスト計画を立て、日々の実績をビジュアル化して管理する方法を学びます。

テスト工程では、前工程の遅れの影響を受けたり、品質対策で作業の組みかえが頻繁に発生します。計画・管理の数字をモデル化することで、日々変化する状況に対して先読みや調整が容易にできるようになります。

本講座では、テスト計画・管理の実務的な方法をお伝えします。テスト工程の精度を向上したいと考えている管理者にとって、有用な内容となっています。実績管理だけではなく、一手先をいくマネジメントを身につけたい方にオススメです。

### 【受講後の効果】

- テストの工数を計画段階で詳細化し、重要度を考慮した工数調整を実施できる
- テスト実行のスケジューリングにおいて、リスクを最小限に抑え込む順を選択できる
- テスト実行の進捗を日々管理するうえで、計画と実績の差分をビジュアル化して把握し、先を予測して対策を検討できる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• テスト工程を管理する立場にあるマネージャーまたはエンジニアの方</li><li>• テスト計画管理の精度をあげたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• Excelの数式がある程度理解できること</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	QM008S

### 講義内容

1. テストの見積り
  - 工数の見積り
  - 工数計画
  - 工数の詳細検討
2. テストの計画
  - 実行のスケジューリング
  - 信頼度成長曲線
  - 残存リスク
3. テストの管理
  - 計画と実績の管理
  - 実績の説明
  - 実績を鑑みた対策

※内容は変更になる場合もあります。

# 生成AI 不具合分析編

## ～不具合データの分析と対策を生成AIで効率的に実施～

マネジメント

### 【概要】

本講座では、品質保証の「方法論」の一つであるソフトウェアの「不具合分析」を学びます。

SHIFTの「不具合分析ノウハウ」をもとに、トータル品質を向上させることを目的として、不具合データの分析手法、不具合原因の深掘り手法を身につけます。

バグを見つけてもそのままにしまい、次も同じバグが繰り返していませんか？ 重大なバグが発生し、その原因を追及し対策を講じてもまた再発していませんか？

本講座では、不具合データをどのように活用するのか、不具合の原因を忖度なく深掘りするにはどうしたらよいかについて、学びます。

生成AIを活用して分析することで、効率的に根本原因に迫ることができます。

### 【受講後の効果】

- 生成AIを用いて不具合データを分析できるようになる
- 生成AIを用いて不具合の原因を網羅的かつ忖度なく深掘りできるようになる
- 生成AIを用いて不具合分析をより効果的に改善することができるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• ソフトウェアの不具合分析を効果的にしたい、分析結果をうまく活用したいとお考えの方</li><li>• 不具合の原因を網羅的かつ忖度なく深掘りするスキルを身につけたいとお考えの方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 情報システムの企画、開発、運用、品質管理などに何かしら関わったことのある方</li></ul>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>• 「オンライン受講にあたって」の「生成AIサービスのアカウント準備について」をご確認のうえ、お申し込みください。</li><li>• 生成AIサービスが使用できない場合、聴講は可能ですが演習には参加できませんのでご注意ください。</li></ul>

レベル感	初級・中級
講座時間	13:00 – 17:00
講座コード	QM010S

### 講義内容

1. 生成AIの基本
  - 生成AIとは
  - まずは使ってみよう
2. 不具合分析の基礎
  - 不具合分析の定義と目的を学ぶ
  - 不具合分析に必要な情報を考える
3. 不具合分析 – データから分析
  - 分析するメトリクスを考える
  - 機能別の品質を分析してみる
  - 弱点は何かを分析してみる
4. 不具合分析 – 原因分析と対策立案
  - 原因分析時の落とし穴をケーススタディで学ぶ
  - 根本原因までたどり着くための手法を学ぶ
  - 再発防止策を考えてみる

※内容は変更になる場合もあります。

# VBA入門編

## ～プログラミング未経験者から学べる～

ベーシック

### 【概要】

#### ★業務効率化への第一歩★

本講座では、一番身近にあって簡単に動かすことのできるVBAをつかって、プログラミングの初歩を学ぶことができます。

オフィス業務の効率改善のためには、単純繰り返し作業を自動化する仕組みが必要です。

Excelの数式を駆使すると多くの複雑な計算ができますが、作業の自動化にはもう一歩進めて、プログラミングをとり入れる必要があります。

本講座では、単にプログラミングを学習するのではなく、それを業務に生かすポイントをお伝えします。

バックオフィス業務担当の方、マネージャー・管理者の方など、業務効率化を実現したい幅広い職種の方々にオススメの講座となっております。

過去にプログラミングで挫折した方にも、講師が親身に指導しますので安心してご受講いただけます！

### 【受講後の効果】

- VBAの基礎を理解し、プログラムを書き、Excel上で実行できるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• Excel作業の効率化のために、プログラミングをはじめたい方</li><li>• 独習でプログラミングはじめてけれども、壁を感じている方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• Excelの行列やセルの概念を認識し、数式が作成できる方</li></ul>
注意事項	

レベル感	エントリー・初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	SB001S

### 講義内容

1. VBAを始める前に
  - 自動化の価値とマクロ記録
  - Excel操作のキーワード

2. プログラムの基本
  - 変数、引数、定数
  - 四則演算
  - プログラム呼び出し
  - 条件、繰り返し

3. Excelの操作
  - レポートを作る
  - ファイルを開く、保存する
  - ソート

※内容は変更になる場合もあります。

# VBAによるRPAプログラミング ～Office連携・Web操作～

ベーシック

## 【概要】

### ★VBAを用いた業務効率化★

本講座では、一番身近にあって簡単に動かすことのできるVBAを使って、RPAプログラミングの初歩を学ぶことができます。

業務の現場では、Excelなどを使ってデータが交換される場面が多々あります。しかし、人手でExcelを作ったり、人手でシステムに入力したりしている場面が多々あります。VBAを用いることによってOffice製品を連携させたり、Webページを操作したりすることができ、単純繰り返し作業を自動化し、より効率的に業務を行うことが可能になります。

本講座では、VBAを用いたOffice製品との連携・Webページの操作を、演習を通して実際に体験していただきます。

バックオフィス業務担当の方、マネージャー・管理者の方など、業務効率化を実現したい幅広い職種の方々にご受講いただけます。

## 【受講後の効果】

- Excel、Word、PowerPoint、Outlookと連携するプログラムを作成でき、実行できるようになる
- Web操作をするプログラムを作成でき、実行できるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• VBAの基本は理解していて、Office製品を連携させたり、Webページを操作したりしたい方</li><li>• ある程度VBAの経験がある方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• VBAの構文やプログラムの動きなどを理解している方Office製品について、基礎の理解がある方Webブラウザについて、基礎の理解がある方</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	SB002S

## 講義内容

### 第1章 Office連携

1. Excel連携：VBAの基本とExcel間の参照・更新
2. Word連携：Wordファイルの参照・更新
3. PowerPoint連携：PowerPointの参照・更新
4. Outlook連携：メールの作成・一覧の操作

### 第2章 Web操作

1. HTMLの基本：HTML操作の基礎
2. 画面部品と操作：Web画面部品とその操作
3. CSSとXPath：画面内要素の選択方法

※内容は変更になる場合もあります。

# アジャイル・スクラム入門

## ～1日でわかる！実践アジャイル・スクラム入門～

マネジメント

### 【概要】

★アジャイル・スクラムを体験して意識を変えよう！★

本講座では、演習を通じてアジャイル開発におけるスクラムを学びます。ウォーターフォール開発の考え方のまま、アジャイル開発（スクラム）に臨むと、途中で行き詰ってしまったり、品質保証が後回しになってしまうケースも見られます。このため、アジャイル開発の基礎をしっかりと固めて、理解度診断や演習によって正しいスクラムの進め方を習得することが重要です。

講座の前半ではアジャイル・スクラムの基本を事例やグループワークを通じて学び、後半は疑似プロジェクトでスクラムを実践していただきます。アジャイル開発をはじめたい方、アジャイル開発に挑戦してみたけれど、未だに不安を抱えている方最適です。

### 【受講後の効果】

- アジャイルの概念を理解し、スクラムの構成要素を把握、概要図の作成や各種タスクの実施ができるようになる

対象者	アジャイル開発を基本から学びたい方、進め方に不安がある方向けの講座です。
前提知識	特にございません
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講座ではオンラインホワイトボードmiroを使用して演習を行います。</li> <li>「オンライン受講にあたって」の「オンラインハンズオン受講環境」をご確認のうえ、お申し込みください。</li> <li>miroが使用できない場合、聴講は可能ですが演習には参加できませんのでご注意ください。</li> </ul>

レベル感	初級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	SB004S

講義内容	
1. アジャイルとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジャイルとは</li> <li>指揮統制 VS 自己組織化</li> <li>ウォーターフォール型とアジャイル型の開発</li> </ul>
2. スクラム入門	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクラムとは</li> <li>スクラムの役割</li> <li>スクラムのイベント</li> <li>スクラムの成果物</li> <li>スクラムの流れ</li> <li>品質を高める完成の定義</li> </ul>
3. スクラムの体験と理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクラム体験ワークショップ</li> <li>研修全体のふりかえり</li> </ul>
※内容は変更になる場合もあります。	

# 腹落ちできるアジャイル・スクラム（2日コース） ～手と頭をフル回転させながらWhyを学ぶ～

マネジメント

## 【概要】

★スクラムマスターを目指す方にオススメ★

本講座では、アジャイル開発のフレームワークであるスクラムの進め方や、その背景や考え方に踏み込んで、深い理解と納得感を得ることができます。

スクラム自体はシンプルで書籍も豊富ですが、実践では「うまくいかない」「どうすればいいかわからない」といった課題に直面しがちです。こうした問題を乗り越えるには、単なる手法ではなく実践による本質的な理解が不可欠です。

アジャイル開発について、実践で悩んだ方、スクラムマスターを目指す方に最適な6時間×2日の講座です。

講座終了後も学習していただけるよう、アジャイル開発の検定試験やスクラムマスター資格試験にも役立つ多くの理解度診断テストと解説を配布いたします。

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>スクラムを学びたい方、非開発業務で活用したい方、行き詰まりを感じている方、スクラムマスターを目指す方に最適な講座です。</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>特にございません</li></ul>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>本講座ではオンラインホワイトボードmiroを使用して演習を行います。</li><li>「オンライン受講にあたって」の「オンラインハンズオン受講環境」をご確認のうえ、お申し込みください。</li><li>miroが使用できない場合、聴講は可能ですが演習には参加できませんのでご注意ください。</li></ul>

レベル感	中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	SB005W

講義内容
<ol style="list-style-type: none"><li>アジャイルとは<ul style="list-style-type: none"><li>社会情勢</li><li>アジャイルマニフェスト</li><li>アジャイルとスクラムの関係</li></ul></li><li>スクラムとは<ul style="list-style-type: none"><li>スクラムガイド</li><li>スクラムフレームワーク</li></ul></li></ol> <p>※Miroを使ったワークをメインに、受講者にあわせて腹落ちが進むように実施します。</p> <p>※内容は変更になる場合もあります。</p>

## 【受講後の効果】

- アジャイルについて、説明できる
- アジャイルは、どういつきにつかうのが効果的なのか腹落ちしている
- アジャイルとスクラムの関係性について、説明できる
- スクラムのやり方について、説明できる
- スクラムの思想について、腹落ちしている

# コンピューター成分 ～コンピューターの中身をまるっと知る～

ベーシック

## 【概要】

コンピューター活用のアイデアを広げるため、コンピューターのことをもっと理解したい。でも、入門書や解説書はむずかしくてよくわからない。。。そんなお悩みをもつ方にオススメの講座です。

コンピューターの主要成分（ハードウェア、ソフトウェア、プログラミング、通信技術）とセキュリティの基礎をわかりやすく解説します。

- ・コンピューター・ハードウェアの概要を習得します。
- ・コンピューター・ソフトウェアの概要とプログラミングの基礎を習得します。
- ・通信技術の概要を習得します。
- ・セキュリティの基礎を習得します。

## 【受講後の効果】

- ・コンピューターリテラシーを身につける
- ・コンピューターを身近に感じられるようになり、活用のアイデアが広がる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・これからITに関わる仕事をはじめの方（IT系新入社員、ノンIT系一般社員）</li><li>・ITパスポート試験を受けようと考えている方</li><li>・DXの推進のためにコンピューターの基礎を学びたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	エントリー・初級
講座時間	13:00 - 17:00
講座コード	SB006H

## 講義内容

1. コンピューターの中身
  - ・ハードウェア、ソフトウェア、プログラミングの基礎を学びます
2. さまざまなコンピューター
  - ・PC以外のコンピューターについて学びます
3. コンピューターの通信
  - ・コンピューターの通信について概要を学びます
4. セキュリティ
  - ・セキュリティの概要を学びます

※内容は変更になる場合もあります。

## 【概要】

Webシステムを題材に基本構成からセキュリティ対策を取った構成、冗長化構成、クラウド版の構成と成長させていながら、ITシステムを開発・運用していく際に理解しておかなければならない、「基本的なシステム構成」「HTTP、IPアドレス、MACアドレス、WAF、冗長化などの頻出用語」「主な攻撃手法とその対策」「信頼性の高いシステムのための対策」「クラウド化する際に利用できるサービスの概要」などについて、**2日間**で学習します。

IT初心者の方が「よく聞けどよく判らない」というポイントが効率よく理解できる内容となっています。

- 第1日前半：Webシステムの基本構成
- 第1日後半：Webシステムに必要なセキュリティ
- 第2日前半：Webシステムの回復性・信頼性の向上
- 第2日後半：クラウドにしてみる

## 【受講後の効果】

- Webシステムを構築するうえでのITインフラの主要な構成要素の理解とその特徴を説明できるようになる
- オンプレミスのシステム構成をクラウド化する際の基本構成を説明できるようになる

対象者	• IT初心者の新人・若手社員を中心にITインフラ全般の初歩知識を習得したい方
前提知識	• 特にございませ
注意事項	

レベル感	エントリー・初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	-

## 講義内容

1. Webシステムの基本構成
2. Webシステムに必要なセキュリティ
3. Webシステムの回復性・信頼性の向上
4. クラウドにしてみる

※内容は変更になる場合もあります。

## 【概要】

モデリングとは、現実世界の特徴を残しながら簡素化し、それを図で表現する手法です。現実ほど複雑ではなく、しかし現実の特徴を残しているために、分析・検討に十分に役に立つ図を書きます。

業務モデリングでは、業務を整理して表現し、ビジネスの理解を深めます。業務を実施する人の間で共有するほかに、情報システムとの関係を確認することができます。

本講座では、基本となる3つのモデルについて、書き方・考え方を学んでいきます。業務の特徴をモデルに落として可視化することで、要件定義の抜け漏れを防いだり、シナリオテストの確認ポイントを検討したりすることに役立ちます。業務が複雑で全体像を理解しにくい、という時に、ぜひ業務モデリングを検討してみてください。

## 【受講後の効果】

- 業務の内容をモデルとして落とし込むことができる
- 業務としての重要点を考えることができる

対象者	• 要件定義やシナリオテストのために、分析した業務内容を整理したい方
前提知識	• 特にございませ
注意事項	• 企業研修でオンライン開催の場合は、miro等の図を共有できるツールを準備ください。(SharePointでOffice利用でも可)

レベル感	初級
講座時間	13:00 – 16:00
講座コード	SB007H

講義内容	
1. 業務モデリングとは モデリングの目的	
2. 業務の流れを整理する 業務フロー図	
3. 業務のデータを整理する 概念データモデル	
4. データの変化を整理する 状態遷移図	
※内容は変更になる場合もあります。	

# システム化企画と要件定義 ～発注者側でやることを理解する～

企業研修向け

ベーシック

## 【概要】

RFP（提案依頼書）や調達仕様書に記載する要件（利害関係者要求事項）を検討し、整理する作業について、全体の流れと、各要件を考える上でのポイントを解説します。

## 【受講後の効果】

- RFPや調達仕様書に記載する要件（利害関係者要求事項）をまとめるプロセスについての知識を習得する
- 要件定義において注意すべきポイントを習得する

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• これからRFPや調達仕様書の作成を担当する方</li><li>• RFPや調達仕様書の品質を向上させ、システム開発や導入を円滑に進められるようになりたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• システム開発の流れやRFPの内容について基本的な知識がある方</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	SB008S

## 講義内容

1. 要件定義の概要
  - システムライフサイクルにおける要件定義
  - 要件定義プロセス
2. システム化構想・企画
  - DX視点での業務見直し
  - システム化目標の検討
  - As IsとTo Beモデルの検討
3. 要件定義の進め方
  - 要件定義作業の流れ
  - 利害関係者（ステークホルダー）の識別
  - 業務要件
  - 機能要件
  - 非機能要件 演習（個人）
4. 利害関係者とのコミュニケーション
  - ヒアリング/インタビュー
  - ヒアリング実践 演習（グループ）

※内容は変更になる場合もあります。

## 【概要】

受入テストは、カットオーバー前の最終チェック段階であり、要件定義通りにシステムができていないか、だけでなく、そのシステムを使用することで実際のサービスや業務を正しく実施できるかを確認するもので、一般的にはユーザー（システムオーナー）主導で行います。

本講座ではこの受入テストの、計画作成、基本的手法であるシナリオテストの設計手法、ランダムテストの観点などを解説します。

## 【受講後の効果】

- 受入テストの計画書が作成できる
- テストシナリオの設計ができる

対象者	受入テストの計画および実行担当者
前提知識	システム開発の流れに関する基礎的な知識 受入テスト計画または実行経験
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	13:00 - 17:00
講座コード	SB009H

## 講義内容

- 受入テストの計画と実践
  - 正常系テスト
  - 異常系テスト
  - 参考：非機能系テスト
  - 参考：様々な操作の確認
  - テスト計画書の作成
  - 課題管理
- シナリオの計画
  - シナリオテストの基礎
  - シナリオフローの作成
    - 演習 1 シナリオの目的の洗い出し
    - 演習 2-1 シナリオフローの作成（正常系）

※内容は変更になる場合もあります。

## 【概要】

DX推進のための開発手法として注目されるアジャイル開発とDevOpsについて、起源から最新の状況までを総合的に学習する基礎講座です。

レベル感	初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	SB010S

## 講義内容

- DXに必要な開発手法
  - DX実現に必要な開発手法
  - なぜ必要とされるのか？
- アジャイル開発
  - アジャイル開発とは？
  - 重視する価値観
  - アジャイル開発手法の基本
  - スクラムの全体像
  - スクラムの3-3-5
  - (演習)開発要求の検討
  - アジャイル開発の9つの意義
  - アジャイル開発の適用方針
  - アジャイル開発の見積もり手法
  - (演習)リスクポーカー
- DevOps
  - DevOpsとは？
  - (プチ演習)アイデア検討
  - DevOpsの再定義
  - DevOpsで取り組むべきこと
  - (演習)DevOps視点でのアイデア検討
  - DevOpsにおける品質の位置づけの変化
  - DevOpsとテスト

※内容は変更になる場合もあります。

## 【受講後の効果】

- アジャイル開発の目的や基本的な考え方を理解する
- アジャイル開発フレームワークとして最も使われているスクラムについて基本的な進め方を理解する
- DevOpsの起源から最新動向を理解する
- DevOpsとテストの考え方を理解する

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業会社のシステム企画・開発担当者</li> <li>システム開発業界の未経験者、初心者</li> </ul>
前提知識	
注意事項	

# 作るUX・測るUX実践講座 ～エンジニアのための利用者視点～

エンジニアリング

## 【概要】

本講座はUXデザインについて、全般的に解説する講座です。  
内容はUXを評価する「測るUX」と企画や製品開発にも応用できる「作るUX」の2部構成になっています。

UX（ユーザーエクスペリエンス）は利用者の体験価値として、広く認識されはじめており、今後のシステムでは、UXの向上が必須のテーマとなることは間違いありません。

本講座では、SHIFTのノウハウを元にした、UXを高める方法を解説します。  
まず「測るUX」では、基礎となるUIデザイン評価について、一般的な方法やSHIFT独自の観点を講義と演習を通じて学びます。

次に「作るUX」で、ユーザー要求を高度に分析する手法を演習主体で学んでいきます。

ソフトウェアエンジニアとしてステップアップをしたい方にはもちろん、事業部門でUXデザインに関わる方にもオススメです。

## 【受講後の効果】

- UX／UXDの意味を正確に理解できる
- UX企画の基本であるペルソナシナリオ作成ができる（作るUX）
- UX品質評価を理解し、簡単なUX評価ができる（測るUX）

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• エンジニア（IT関連従事者）</li><li>• 実装（開発）から企画評価運用などへのスキルを伸ばしたい方</li><li>• UXに関心のある初心者</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特にございませ</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	SE001S

## 講義内容

1. UXとは
2. SHIFTのUX作りこみモデル
3. 作るUX（UX企画）
4. 作るUXワークショップ（ペルソナ・シナリオ手法）
5. 測るUX（UX品質評価）
6. 測るUXワークショップ（エキスパートレビュー）

※内容は変更になる場合もあります。

# 理想のCXを実現する ～CX品質の保証プロセス～

エンジニアリング

## 【概要】

★カスタマーエクスペリエンス（CX）手法を最大限に活用しよう★

本講座は、顧客の体験（CX）を通して、システムの価値を高め、ビジネスモデルを有効化することを考える講座です。

システム企画の効果を向上するための検討過程を理解し、実践するための気づきを得てもらうことを目的としています。

現代の新しいビジネスはITと密接に結びついており、実際にお客様がITをつかった際の体験によってその成否がわかります。

お客様の満足度向上および、さらなる販売拡大へとつなげるためには、ビジネスとシステムを同時に考え、お客様にどうアピールしていくかを検討する必要があります。

システム企画の結果は、CXとして評価されます。CXを通してシステムが使われる場面を考えることで、システム企画の効果を向上させることができます。

## 【受講後の効果】

- CX手法の進め方、担うべき役割が理解できる
- CX手法を企画戦略に活かすことができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• システムの利用者満足度をあげたい方</li><li>• 満足度の向上を販売の拡大につなげたいと考えている方</li><li>• システム企画の効果を向上したい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	中級・上級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	SE002S

## 講義内容

1. CXの必要性
  - CXとは何か
  - CXが重視される理由
  - CX向上の効果
2. CX向上のポイント
  - 消費者購買モデル
  - カスタマージャーニー
3. 既存提供価値のCX向上
  - 既存提供価値とCX
  - CXの測定
  - CX向上例
4. 新たな価値によるCX向上
  - 新たな価値とは
  - チーム組成・規則策定
  - 施策の検討
  - 要件化・外部折衝～優先順位づけ～ローンチ

※内容は変更になる場合もあります。

# 要件定義入門 ～上流工程の品質を考える～

PDU対象  
マネジメント

## 【概要】

### ★上流工程の品質向上を目指そう★

本講座は、プロジェクト遅延原因の大半を占める要件定義工程の品質向上策の講座です。REBOKや現場独自の経験に基づき、「要件定義で実施すること」、「要求分析～仕様化～評価の手法」を中心に、要件定義でのポイントを学びます。要件定義やその前段のシステム企画が十分でないままプロジェクトが進むことによって、あとから課題が見つかる例が多くあります。その結果、システム開発の途中でプロジェクトが中断したり、開発コストが予定を大幅に超過するなどの問題が発生します。

本講座では、このようなトラブルを防ぐために、要件定義工程の品質向上に向けたポイントを学びます。これから本格的に要件定義を担当する方や、部下に要件定義の進め方を教育する方にとってオススメの内容となっています。

本講座はPDU(\*1)取得対象講座であり、6PDU (Ways/Working:3、PowerSkills:1、Business:2) の取得が可能です。

(\*1)PDUとは、世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIが認定する国際資格「PMP (Project Management Professional)」の維持に必要な学習単位です。

## 【受講後の効果】

- ビジネス要求定義の実施方法、注意点が理解できる
- 要件の抜け漏れが内容に網羅的に抽出することができる
- 要件を分析して適切なスペックに落とすことができる
- 要件定義の妥当性を検証することができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 要件定義を担当するエンジニアの方</li> <li>• 要求定義を受けて、システム化要件定義を行うエンジニアおよび開発ベンダーの方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 特にございません</li> </ul>
注意事項	

レベル感	中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	SE003S
講義内容	
<p>1. 要件定義の背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ITプロジェクトの現状</li> <li>• 要件定義の重要性</li> <li>• 要件定義の難しさ</li> </ul> <p>2. 要件定義のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 要件定義での失敗事例</li> <li>• 要件定義“あるある”</li> <li>• 要件定義の失敗原因</li> <li>• 要件定義の成功に向けて</li> </ul> <p>3. 要件定義のプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 要件定義の手順 <ul style="list-style-type: none"> <li>①計画策定</li> <li>②現状把握</li> <li>③問題分析</li> <li>④課題解決 (To-Be)</li> <li>⑤要件整理</li> </ul> </li> </ul> <p>4. 要件定義の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 要件の抽出</li> <li>• 要件の分析/仕様化</li> <li>• 要件の検証</li> </ul> <p>5. 要件定義工程以降でのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本設計の進め方 <ul style="list-style-type: none"> <li>①設計開始に当たってのポイント</li> <li>②要件トレーサビリティ</li> </ul> </li> <li>• 要件定義書の詳細化/最新化の重要性</li> </ul> <p>※内容は変更になる場合もあります。</p>	

# 要件定義の実践 ～システム化方針策定と要件定義の実践力を習得～

PDU対象  
マネジメント

## 【概要】

★超上流 & 上流工程での実践力を身に付けよう★

まずは、下りてきた業務課題を正しく認識しなければなりません。これを間違っていると使えないシステムができあがるからです。そして、システム化方針の立案～評価～決定といった超上流工程を実践していきます。

さらには、システム化方針に基づいて詳細な要求の洗い出し～各要求の対応施策立案～対応施策の評価と採用可否の決定～ステークホルダー間の合意を実践していきます。次に、それら業務要件をシステム要件に落とし込むところまで実践していきます。

次のようなお悩みをおもちのチームにおススメです。

- ・システム化したものの、その効果はイマイチ
- ・いつも、開発終盤になって、ユーザ部とシステム部が揉める…「こんなシステムじゃつかえない」vs「でも、そうしてほしいといいましたよね」

本講座はPDU(\*1)取得対象講座であり、7PDU (Ways/Working:4、PowerSkills:1、Business:2) の取得が可能です。

(\*1)PDUとは、世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIが認定する国際資格「PMP (Project Management Professional)」の維持に必要な学習単位です。

## 【受講後の効果】

- ・業務課題を正しく認識し、適切なシステム化方針を決定することができる
- ・業務要件の整理と合意、および新システムのモデル化ができる
- ・システム要件の定義を推進することができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム化企画に携わる方</li> <li>・要件定義にユーザ部門もしくはシステム部門として参画する方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報システムの立案、開発、運用などに何かしら関わったことのある方</li> </ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級・上級
講座時間	9:30 – 17:30
講座コード	SE006S
講義内容	
<ol style="list-style-type: none"> <li>要件定義の難しさ <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトの失敗原因と炎上事例</li> <li>・要件定義がむずかしい理由</li> </ul> </li> <li>システム化方針の決定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務課題内容の把握</li> <li>・業務課題の分析対応方針の立案立案【演習】</li> <li>・対応方針案の評価と決定【演習】</li> </ul> </li> <li>要件定義 - 業務要件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・システム化課題に対する施策の立案【演習】</li> <li>・対応施策の決定【演習】</li> <li>・新システムの可視化 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 業務フロー (ToBe) を作成する【演習】</li> <li>- 業務処理定義 (ToBe) を作成する【演習】</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>要件定義 - システム要件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能系の定義</li> <li>・UIまわりの定義</li> <li>・データ系の定義【演習】</li> <li>・非機能要件の定義</li> </ul> </li> <li>まとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>・システム化方針の立案と決定～業務要件の定義～システム要件の定義のポイントをおさらい</li> </ul> </li> </ol> <p>※内容は変更になる場合もあります。</p>	

## 【概要】

★パッケージ業務システムを導入する際に必要となる知識を初心者にもわかりやすく解説する講座です★  
 本講座では、パッケージ業務システムの製品選定や導入プロセスの重要なポイントについて学びます。

具体的には、パッケージ業務システムの導入がもたらすメリットやリスク、製品選定における比較検討の方法やつまづきやすいポイントなどについて解説します。また、演習やグループディスカッションを通じて、パッケージ製品の選定および導入プロセスの一部を体感することができます。

本講座は、パッケージ業務システムの導入経験が浅い、またははじめて携わることになった担当者の方々にオススメです。  
 ぜひ、この機会を製品選定や導入に関する基礎知識習得の場としてご活用ください。

## 【受講後の効果】

- 「パッケージ業務システム選定導入プロセスの全体像」を理解している
- 「パッケージ業務システムの選定における重要な考え方（Fit & Gap、Fit to Standard）」を理解している

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>• これからパッケージ業務システムの導入</li> <li>• 刷新プロジェクトにはじめて携わる方</li> </ul>
前提知識	
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	13:00 – 17:00
講座コード	SE007H

講義内容	
1. システム導入の目的	- 目的を明確にする
2. 導入プロセスの全体像	- 全体像を把握する
3. Fit & Gap	- 製品比較のポイントを理解する
4. Fit to Standard	- 効果的な導入のポイントを理解する
※内容は変更になる場合もあります。	

## 【概要】

本講座は、情報セキュリティ実務に必要な知識を包括的に学ぶ講座です。

サイバー攻撃はますます増加し、手口も巧妙になっています。被害額が数百億円規模になる事例も出ており、現在では民間・公共を問わず情報セキュリティは事業運営の最重要項目の1つになっています。適切な対策を行うには、脅威と対策の最新動向に関する知識、情報セキュリティポリシーなどの規定に含める内容に関する知識、技術的脆弱性への対応に関する知識など、幅広い知識が必要です。

本講座では、情報セキュリティ実務に必要な知識について全般的に解説します。

情報セキュリティ担当者はもちろんアプリ開発や導入に携わる方にもオススメの講座です。

## 【受講後の効果】

- ・ 情報セキュリティの脅威、脆弱性、対策について、インフラ部門の担当者として必要な知識を身につけている

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報セキュリティ対策の企画、セキュリティ運用（SOC）、インシデント対応(CSIRT)などを担当される方</li><li>・ 情報セキュリティ関連の知識を深めたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特になし</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	-

## 講義内容

1. 情報セキュリティ概要
  - ・ 情報セキュリティとは？
  - ・ 情報セキュリティが必要な理由
  - ・ 経済的損失の例
  - ・ 脆弱性
  - ★演習 1：セキュリティインシデント
2. 情報セキュリティの脅威
  - ・ 情報セキュリティの10大脅威
  - ・ マルウェア
  - ★演習 2：情報セキュリティの脅威
3. 情報セキュリティ対策
  - ・ 情報セキュリティ対策の概要
  - ・ 基本方針および各種規定の策定、体制の整備
  - ・ 技術的脆弱性への対応
    - ・ 脆弱性情報の入手（CVSSなど）
    - ・ インジェクション攻撃と対策
    - ・ クロスサイトスクリプティング攻撃と対策
    - ・ その他攻撃と対策
  - ・ 物理的脆弱性への対応
  - ★演習 3： 人的脆弱性への対応

※内容は変更になる場合もあります。

# コンピューター基礎 ～原理や構成から学ぶ～

エンジニアリング

## 【概要】

コンピューターに関わる基礎知識のうち、システムインフラストラクチャーに関わる部分を学習します。これからコンピューターを学ぶ新人の他、少し経験を積んで改めて基礎を確認したい中堅エンジニアにもオススメです。

基本情報技術者試験の出題範囲は、IT技術者を目指す人にとって必要なものですが、インフラ担当には少しものたりない部分があります。この講座では、基礎理論から実践的な知識まで広くカバーすることで、よりコンピューターの知識を深めることを目指しています。

以下の内容について学習します。

- ・コンピューター概論
- ・ハードウェアの仕組み
- ・OS概論
- ・ミドルウェア概論

## 【受講後の効果】

- ・コンピューターの基礎的な用語を理解し、性能に関わる要素の判断ができるようになる
- ・コンピューターを構成するハードウェアやミドルウェアの働きを理解し、説明できるようになる
- ・システムのインフラストラクチャー選定について、指導を受けながら実施できるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新しくITインフラストラクチャーの担当になった方</li><li>・ 改めてITインフラストラクチャーの構成を確認したい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	SE010S

## 講義内容

1. コンピューター概論
  - ・コンピューターとは
  - ・2進数
  - ・5大装置
  - ・ソフトウェア
2. ハードウェアの仕組み
  - ・CPU
  - ・ストレージ
  - ・インターフェース
3. OS概論
  - ・OSの基本機能
4. ミドルウェア概論
  - ・ミドルウェアとは

※内容は変更になる場合もあります。

# ネットワーク

## ～原理や構成から学ぶ～

エンジニアリング

### 【概要】

ネットワークに関わる基礎知識のうち、システムインフラストラクチャーに関わる部分を学習します。これからネットワークを学ぶ新人の他、少し経験を積んで改めて基礎を確認したい中堅エンジニアにもオススメです。

基本情報技術者試験の出題範囲は、IT技術者を目指す人にとって必要なものですが、インフラ担当には少しものたりない部分があります。この講座では、基礎理論から実践的な知識まで広くカバーすることで、よりネットワークの知識を深めることを目指しています。

以下の内容について学習します。

- ・ネットワーク基礎
- ・ネットワークの仕組み
- ・HTTPとWebアプリケーション
- ・Webシステムの構成

### 【受講後の効果】

- ・ ネットワーク機器がどのように動作するのか、説明ができるようになる
- ・ Webシステムに必要なネットワークやサーバーの構成について、説明できるようになる
- ・ Webシステムのインフラストラクチャー設計について、指導を受けながら実施できるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新しくITインフラストラクチャーの担当になった方</li><li>・ 改めてITインフラストラクチャーの構成を確認したい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	SE011S

### 講義内容

1. ネットワーク基礎
  - ・ネットワークの定義
  - ・ネットワークの種類と特性
  - ・ネットワークのトポロジー
  - ・規格と速度
2. ネットワークの仕組み
  - ・OSI参照モデル
  - ・IPアドレス
3. HTTPとWebアプリケーション
  - ・HTTP
  - ・Webアプリケーション
4. Webシステムの構成
  - ・Webシステム
  - ・セグメント

※内容は変更になる場合もあります。

# データベースインフラストラクチャー ～データベースのためのインフラ選定ポイント～

エンジニアリング

## 【概要】

データベースに関わる専門知識のうち、要件に応じたデータベースとデータベースを稼働させるインフラストラクチャーについて、最適な選定をするためのポイントを学習します。

またデータベースの論理設計についても簡単に学習しますので、インフラ専任の方でも、アプリケーション側のメンバーとのやり取りの際に困らないだけの知識を身につけます。

主に以下の点となります。

- ・データベースに必要なサーバー構成
- ・データベースの設計
- ・運用管理
- ・データベースセキュリティ

## 【受講後の効果】

- ・要件に応じたデータベースの選定ができるようになる
- ・データベースを稼働させるインフラストラクチャーについて、最適な選定ができるようになる
- ・アプリケーション側からみたデータベース設計について理解できるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新しくデータベースインフラストラクチャーの担当になった方</li><li>・ 改めてデータベースインフラストラクチャーの構成を確認したい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>

レベル感	初級・中級
講座時間	9:30 - 17:30
講座コード	SE012S

## 講義内容

- ・データベースとは
- ・データベースのインフラ設計
- ・データベースの概念設計・論理設計・物理設計
- ・データベースの運用管理・データベースセキュリティ
- ・データベースの最新動向

※内容は変更になる場合もあります。

# クラウドサービス入門

## ～安全にクラウドサービスを利用するための基本知識～

エンジニアリング

### 【概要】

いまやクラウドサービスは、企画やマーケティングをはじめとするビジネスの現場で、その仕組みや可能性を理解することで大きな強みとなります。

その一方で、セキュリティの課題や取引先とのつながりによるリスク（サプライチェーンリスク）など、注意すべきポイントも存在します。クラウドを導入する際には、このようなメリットとリスクの両方をしっかりと考えることが大切です。

本講座では、ITの専門知識がなくてもクラウドサービスの基礎知識を習得できるよう、最新の動向や実際の活用例をわかりやすく解説します。「なんとなく知っているクラウド」から「ビジネスで活用できるクラウド」に踏み出しましょう！

### 【受講後の効果】

- ・クラウドの基本概念や目的、メリット／デメリットを理解する
- ・クラウド導入までのステップを理解する
- ・クラウドに関するリスクと対策の基礎知識を理解する

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自社のIT環境にクラウドサービスの導入を検討される方</li> <li>・ 新たなサービスにクラウドを検討されている方</li> <li>・ 業務の改善にクラウドを利用しようとしている方</li> <li>・ システム開発／システム運用の未経験者、初心者</li> </ul>
前提知識	・ 特にございません
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	9:30 – 17:30
講座コード	SE013S

### 講義内容

- クラウドサービスとは
  - ・クラウドサービスの基本概念
  - ・身近なクラウドサービスの活用事例
  - ・オンプレミスとの違い
  - ・クラウドサービスの種類（SaaS、PaaS、IaaS）
  - ・クラウドサービスのメリット・デメリット
  - ★クラウドサービスの基礎に関する理解度診断
- クラウドサービスの導入検討
  - ・クラウドサービス（SaaS）導入の事前検討
  - ・計画立案
  - ★演習：クラウドサービスの導入計画書を作成する
- クラウドサービスの調達から導入・運用まで
  - ・クラウドサービス（SaaS）の選定基準  
→ クラウドサービス事業者、サービスの選定
  - ・導入、移行時の留意点
  - ・運用開始、サービス終了時の留意点
  - ★演習 調達仕様書をチェックする
- クラウドサービスのリスクと対応策
  - ・コストオーバーのリスクと対策
  - ・セキュリティリスクと対策
  - ・サプライチェーンリスクと対策
  - ★演習 リスクと対策の検討

※内容は変更になる場合もあります。

# プロジェクトマネジメントの実践 ～PMスキルを網羅的にかつ実践的に身につける～

PDU対象  
マネジメント

## 【概要】

ソフトウェア開発業務を管理・推進するにあたり、必要となるプロジェクトマネジメントの基礎知識をPMBOKのフレーム（知識エリア／プロセス群）に沿って解説します。さらに、個人演習やグループ演習を通して、実際のプロジェクトマネジメントを実践いただきます。

### ★以下のようなお悩みをお持ちのチームにおススメです★

- ・いつも対応がバタバタして、メンバーの作業待ちを発生させてしまう。
- ・進捗の状況、遅れの原因を的確に把握できず、対応が後手にまわり、結果、納期の遅延、コストの超過が発生してしまう。
- ・リスクの洗い出しや対応が適切に実施できておらず、思わぬ遅延やコスト超過を招いてしまう。
- ・メンバーのフラストレーションが溜り、チーム内がギクシャクしてしまう。

本講座はPDU(\*1)取得対象講座であり、7PDU（Ways/Working:4、PowerSkills:2、Business:1）の取得が可能です。

(\*1)PDUとは、世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIが認定する国際資格「PMP（Project Management Professional）」の維持に必要な学習単位です。

## 【受講後の効果】

- ・ スコープの明確化→工数見積り→スケジューリング／要員アサインが適切にできること
- ・ リスクが適切に管理でき、顕在化した際の影響を極小化できること
- ・ 適切な進捗管理とスコープ変更対応ができること

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソフトウェア開発プロジェクトの管理</li> <li>・ 推進に携わる方、あるいはその役割を目指す方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソフトウェアの開発やテストの経験がある方もしくはその管理推進業務にたずさわったことのある方</li> </ul>
注意事項	

レベル感	中級・上級
講座時間	9:30 - 17:30
講座コード	SM001S

## 講義内容

- はじめに
  - ・プロジェクトマネジメント／プロジェクトマネジャーの役割
  - ・PMBOKとシステム開発プロジェクトとの関連づけ
  - ・プロジェクトを成功させるために何に注力するか？【演習】
- プロジェクトの立上げ
  - ・プロジェクトマネジャーの任命とプロジェクトの開始宣言～開発関連ドキュメントの確認～ステークホルダーの特定について解説
- プロジェクトの計画
  - ・背景と目的、体制と役割分担
  - ・スコープ（対象範囲と対象作業）
  - ・WBS（Work Breakdown Structure）【演習】
  - ・各開発工程の完了基準
  - ・工数見積りとスケジューリング【演習】
  - ・資源計画／コスト計画／品質計画／計画時のリスク分析
  - ・各種の管理手法／プロジェクト運営ルールの策定
- プロジェクトの実行／監視・コントロール
  - ・キックオフ・ミーティング
  - ・進捗管理（進捗管理の落とし穴と脱出アクション）
  - ・新たなリスクの洗い出し／分析／対応策プランニング【演習】
  - ・課題管理とスコープ変更管理
- プロジェクトの終結
  - ・成果物の整理と各種の終了手づき
  - ・振り返りと終了報告書の作成

※内容は変更になる場合もあります。

# 現場力を高める攻めのプロジェクト進捗管理 ～実務で即効性のある進捗管理手法を身につける～

マネジメント

## 【概要】

プロジェクト管理に関する知識は、資格取得や研修にて習得することが可能です。しかし、実際のプロジェクトとなると学んだ知識だけでは対処できない場面に出くわすはずで

す。本講座では、プロジェクト進捗管理の実務スキルを本格的に学び、現場での即戦力となるテクニックが習得可能です。

実際のプロジェクトで直面する様々な課題に対応できるように、計画立案から実行、計画からズレた際の修正方法までを網羅的に学ぶことができます。特に、計画の作成方法、日々の進捗の追跡方法、そして、予期せぬ問題が発生した際の効果的な対応策に焦点を当て、それぞれのテーマにそった実践的なワークショップを通じて理解を深めます。

## 【受講後の効果】

- ・ 効率的な計画作成とその実行方法が習得できる
- ・ 実際のプロジェクトで遭遇する計画のズレと遅延への迅速な対応と修正方法が習得できる
- ・ 継続的なプロジェクトの進捗状況の評価と管理能力が向上する

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業会社の実務担当者、情報システム担当者など、プロジェクトにおける進捗管理を実施する方</li> <li>・ プロジェクト管理における実践的なスキル向上を求める方</li> <li>・ 現場で進捗管理をするにあたってスグにつかえるテクニックを知りたい方</li> </ul>
前提知識	
注意事項	

レベル感	中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	SM002S

講義内容	
【進捗管理概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクトマネジメントとは</li> <li>・ なぜ進捗管理をするのか</li> </ul>
【日々の進捗管理運用の仕方】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進捗管理の仕方</li> <li>・ 進捗報告の組み立て方</li> <li>・ 分析の仕方</li> <li>・ 伝えたいことの組み立て方</li> </ul>
【遅れが発生したときの対処方法】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遅延とは</li> <li>・ 遅延の予測、対策</li> <li>・ お役立ちテクニック</li> </ul>
※内容は変更になる場合もあります。	

## 【概要】

本講座では、要求開発の基本概念から実践的な手法まで体系的に学びます。

要求はあらかじめ存在するものではなく関係者と共に作り上げるものという考え方にに基づき、ステークホルダー間の合意形成（コタツモデル）を通じて価値のある要求を開発する方法を習得します。モデリング技術による要求の可視化と構造化、要求分析ツリーの作成など、豊富な実践的ワークショップを通じて理論と実践を両立させ、受講後すぐに現場で活用できる即戦力スキルを身につけます。

また、実際のプロジェクト事例を用いた演習により、様々な業界・規模のシステム開発における要求開発の課題解決アプローチも学習できます。

## 【受講後の効果】

- ・ステークホルダーと協働して真に価値ある要求を開発し、プロジェクト成功に導く実践的スキルを習得する

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム開発に関わるプロジェクトマネージャー、システムエンジニア、ビジネスアナリスト、業務部門とIT部門の橋渡し役を担う方など効果的な要求開発手法を学びたい方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム開発プロジェクトの基本的な流れと用語の理解があることが望ましいです</li> </ul>
注意事項	<p>本講座はグループワークや実践演習を中心とした参加型研修です。積極的な発言と他受講者との協働が求められます。システム開発の基本的な知識があることが望ましく、事前課題がある場合は必ず取り組んでからご参加ください。また、学習効果を高めるため実際のプロジェクト事例をお持ちいただくことを推奨します。</p>

レベル感	エントリー・初級・中級・上級
講座時間	9:30 – 17:30
講座コード	—

講義内容	
・要求開発の概念と基本原則	
・要求を取り巻く状況と課題の理解	
・ステークホルダー連携のためのコタツモデル	
・要求開発方法論と4象限モデル	
・要求可視化のためのモデリング技術	
・ステークホルダーモデルと価値分析モデルの作成	
・要求分析ツリーの構築と評価	
・実践演習を通じた要求開発スキルの習得	
・学びの定着と実務への応用方法	
※内容は変更になる場合もあります。	

## 【概要】

IT化方針や中長期計画の理解、IT案件の進め方、案件推進の実務など、事業会社でIT化を推進する上で必要な内容を総合的に解説します。

## 【受講後の効果】

- IT化方針や中長期計画を理解している。
- 案件推進のためのプロセスを理解している。
- 事業会社側の案件責任者として案件を管理・推進できる

対象者	• 事業会社でこれからIT化計画やIT案件の推進を担当される方
前提知識	• システム開発の流れに関する基礎的な知識
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	-

## 講義内容

1. IT化方針
  - IT活用の基本方針
  - IT化の中長期計画
  - (演習1 IT活用案)
2. 事業会社IT部門の仕事
  - IT人材の比率
  - 事業会社のIT要員の仕事
  - 案件推進における役割
  - (演習2 現在の課題)
3. 予算作成
  - 予算案作成
  - 予算申請・承認
4. 案件推進
  - 調達・ベンダー選定
  - 案件推進工程
  - 案件推進における3つのコントロール  
ベンダー  
リスク  
(演習3 リスクコントロール)  
スコープ
  - ベンダー資料のチェックポイント

※内容は変更になる場合もあります。

# デザイン思考入門

## ～今日からはじめるイノベーション～

ベーシック

### 【概要】

イノベーションのアイデアを創出する手法として近年注目されているのがデザイン思考です。

DXやアジャイル開発など、イノベーションに関する取り組みでは、その重要性が強く叫ばれています。

しかし、その内容や目指すところの説明があいまいで、講座を聞いたり、解説書を読んだりしても、よくわからなかったという人が多いと思います。

本講座では、デザイン思考がなぜ生まれたのか、その目的を解説し、さらに具体的なプロセスについて解説します。

「DXを進めるためにデザイン思考を基礎から学びたい」という方にはもちろん、「一度学んだがよくわからなかった」という方にもたいへんオススメの講座です。

- ・デザイン思考の目的を理解します。
- ・デザイン思考のプロセスについて概要を習得します。
- ・デザイン思考を実践するために必要な環境を理解します。

### 【受講後の効果】

- ・業務のなかでデザイン思考を活用できる
- ・DXなどのアイデア創出をリードできる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新入社員からベテラン社員までデザイン思考を業務に活かしたい方</li><li>・ 一度学んだが、よくわからなかったという方</li><li>・ DXのアイデアを創案したい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	13:00 – 17:00
講座コード	BH001H

### 講義内容

1. デザイン思考が目指すもの
2. デザイン思考のプロセス
3. プロトタイプの手法
4. 必要な環境

※内容は変更になる場合もあります。

# DXパターン

## ～DXの基礎知識と実践例～

ベーシック

### 【概要】

今やDXは担当部署だけでやるものではなく、だれもが主体的に推進することを求められています。

しかし、DXとはそもそも何なのか？ 従来のIT化とはいったい何が違うのか？ といったことについては、意外とわかりにくいのが実情だと思います。

本講座では、DXの全体像、イノベーションの考え方、注目のデジタル技術、テストの方法など、DX推進に踏み出すためのエッセンスをまとめて解説します。

- ・DXの目的、イノベーションについて考え方を習得します。
- ・DXの手段、デジタル技術について概要を習得します。
- ・品質確保のためのテスト方法について概要を習得します。
- ・DXに関連する用語やガイドラインについて概要を習得します。
- ・DX人材に必要なスキルや特性について概要を習得します。

### 【受講後の効果】

- ・DXの推進に主体的にとりくめるようになる
- ・アイデア創出をリードできる
- ・DX文脈で登場する、技術や関連政策などについて幅広く理解している
- ・DX人材として活躍するための自己啓発の方向性を理解している

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新入社員からベテラン社員までDXの推進に関わりを持つ方</li><li>・ DXの概要は習ったが、具体的なアイデアの検討に困っている方</li><li>・ DX推進人材の育成やDX推進組織の立ち上げや運営を検討している方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	13:00 - 17:00
講座コード	BH002H

### 講義内容

1. イノベーションってなんだ？
2. デジタル技術ってどんなの？
3. テストはどうする？
4. DX関連制度やDX用語の基礎知識
5. DX人材のスキルと特性

※内容は変更になる場合もあります。

### 【概要】

生成AIの活用が注目されていますが、その有効性を最大限に引き出すには、生成AIの現状と活用事例、そしてメリットと注意点の理解が必要です。

本講座では、生成AIの基本概念からスタートし、その活用方法や活用するリスク／活用しないリスクを学びます。

「明日からの業務改善に役立つ」具体的な実践スキルを演習形式で伝授します。この講座を通じて、生成AIの理論と実践の両面から理解を深め、実務へ応用することが目的です。

また、生成AIを活用できる企業の共通点と活用ステップを学ぶために、具体的な成功事例や業務活用の効果についてご紹介いたします。その上で参加者がAIツールを実際に操作しながら学べる実践的な演習を多数用意しています。

各演習では議事録作成など、定常業務で即活用できるテクニックを重点的に習得します。翌日から自信を持って職場で実践できるスキルが身につきます。

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>生成AIを活用してチーム内の作業効率化を推進したいリーダーの方</li> <li>生成AI導入を進めるにあたって他社の活用事例を知りたい方</li> <li>日常業務で役立つプロンプトを知りたい方</li> </ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>特にございません</li> </ul>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>「オンライン受講にあたって」の「生成AIサービスのアカウント準備について」をご確認のうえ、お申し込みください。</li> <li>生成AIサービスが使用できない場合、聴講は可能ですが演習には参加できませんのでご注意ください。</li> </ul>

レベル感	エントリー・初級
講座時間	13:00 - 16:00
講座コード	BH003H

講義内容	
Part1 : 導入～問題提起	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場予測や普及度から見る現状</li> <li>日本の企業は生成AI禁止が多い？</li> <li>デジタル化の影響</li> <li>業務活用が進まない理由</li> </ul>
Part2 : 解決（成功事例）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生成AIを活用できる企業の共通点と活用ステップ</li> <li>生成AIの業務活用メリット</li> </ul>
Part3 : プロンプト基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>生成AIの定義や種類</li> <li>なぜプロンプト・スキルが必要なのか</li> <li>プロンプトスキルの基礎</li> <li>演習問題</li> </ul>
※内容は変更になる場合もあります。	

### 【受講後の効果】

- 生成AIの動向を知り、戦略的な意思決定ができる
- 生成AIを最大限に活用するスキルを習得する

# 生成AI 業務活用編

## ～未来の業務をデザインするための第一歩～

AI関連

### 【概要】

この研修は「生成AI 業務活用編」の入門として、バックオフィス業務における生成AIの基礎知識と実践的な活用方法を学習します。

学習内容は主に次の三つの領域に分かれています。

- 第一に生成AIの基礎知識とメカニズムについて理解を深めます。
- 第二に効果的なプロンプト設計の基本と実践手法を学びます。
- 第三に構造化プロンプトの作成と改善方法について習得します。

また実務で想定される具体的なシナリオに基づいた演習を通じて、社内文書作成や業務手順書作成などのバックオフィス業務に必要なプロンプト設計技術を実践的に学びます。

この研修を通じて得られるスキルは、業務効率の向上と新たな業務改善の可能性の発見に役立ちます。

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>生成AIやプログラミングに不慣れな、エンジニアではないバックオフィス業務担当者（総務人事経理など）で、文書作成や情報整理の日常業務を効率化するために生成AIを活用したいと考えている方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>基本的なパソコン操作とオフィスソフト経験があれば、どなたでも受講可能です。特別なITやAIの予備知識は必要ございません</li></ul>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>「オンライン受講にあたって」の「生成AIサービスのアカウント準備について」をご確認のうえ、お申し込みください。</li><li>生成AIサービスが使用できない場合、聴講は可能ですが演習には参加できませんのでご注意ください。</li></ul>

レベル感	初級・中級
講座時間	13:00 – 17:00
講座コード	BH004S

講義内容
<ul style="list-style-type: none"><li>生成AIの基礎</li><li>演習1: 基礎知識の確認</li><li>プロンプト設計の基本</li><li>演習2: プロンプト作成</li><li>精度を上げるための構造化プロンプト</li><li>標準化プロンプトテンプレートの解説</li><li>演習3: 構造化プロンプトの作成</li><li>まとめと質疑応答</li></ul> <p>※内容は変更になる場合もあります。</p>

### 【受講後の効果】

- 生成AIの基本的な仕組みと特性について知見を得られる
- 業務目的に応じた適切なプロンプトの設計について理解できる
- 構造化プロンプトを用いた業務文書の作成について習得できる

# 生成AI テスト設計編

## ～ソフトウェアテスト業務に特化した生成AIの活用方法を伝授～

AI関連

### 【概要】

生成AIの基本的な仕組みと特徴を詳しく説明します。生成AIは、入力されたプロンプトに対して最適な出力を生成する技術であり、大量のデータを学習して多岐にわたる応用領域に対応できます。

そして、生成AIをテスト設計で活用する方法について具体例を交えて学びます。テスト設計の課題解決には、仕様の明確化、インプットの理解、テスト観点の作成、因子と水準の作成といったタスク分割を行い、生成AIを活用して条件を明確にする方法を学びます。

生成AIの精度を向上させるための鍵となる構造化プロンプトについて学びます。

構造化プロンプトは、複雑な情報を整理し、生成AIに対する指示を明確に伝える手法です。プロンプトを階層的に分けることで、AIの理解を助け、生成される回答の質を向上させます。

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>生成AIを活用してソフトウェアテストの作業効率化を推進したいリーダーの方</li><li>ソフトウェアテスト設計の業務で役立つプロンプトを知りたい方</li><li>特定のメンバーに依存する知識やノウハウがあり、知識の属人化にお困りの方</li></ul> ※事前または事後に「テスト設計（機能テスト）」を受講いただくと、より理解が深まります
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>ソフトウェア開発におけるテスト設計の基本知識</li></ul>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>「オンライン受講にあたって」の「生成AIサービスのアカウント準備について」をご確認のうえ、お申し込みください。</li><li>生成AIサービスが使用できない場合、聴講は可能ですが演習には参加できませんのでご注意ください。</li></ul>

レベル感	初級・中級
講座時間	13:00 – 17:00
講座コード	BH005S

講義内容	
1. LLM概要	<ul style="list-style-type: none"><li>生成AIの基本的な仕組み</li><li>LLM利用時のセキュリティリスクとその対処法</li><li>トークンの仕組み</li><li>コンテキストウィンドウ</li></ul>
2. テスト設計での活用について	<ul style="list-style-type: none"><li>テスト設計のタスク分割</li><li>テスト業務の一般的な課題に対する生成AI活用例</li></ul>
3. 構造化プロンプトについて	<ul style="list-style-type: none"><li>プロンプトの階層構造による構造化手法</li><li>プロンプトの構造化の基本形</li></ul>
4. 構造化プロンプトの演習問題	<ul style="list-style-type: none"><li>テスト設計における生成AIの活用例</li></ul>
※内容は変更になる場合もあります。	

### 【受講後の効果】

- プロンプトの作成とその構造化手法を理解できる
- 自身のテスト設計業務で活かせるスキルを習得できる
- ソフトウェアテスト設計のプロンプトをチーム内で共有し活用できる

# 生成AI ユニットテスト編

## ～単体テストの自動化に特化した生成AIの活用方法を伝授～

AI関連

### 【概要】

生成AIの活用はシステム開発工数の削減に一定の効果があります。とはいえ、本番用の納品物を生成AIで作るのは抵抗がある人も多いでしょう。でも、テストコードならどうですか？

生成AIを用いると自動で実行できるユニットテストのコードを生成することができます。本講座では、ユニットテストを効果的に行うポイントも合わせて解説しますので、すぐにでも開発作業に適用できます。

ユニットテストを十分に行うことで、単純なバグをほとんど取り去ることができます。ソースコードを書いてすぐにユニットテストをしてバグを見つけられれば、後で検出されるのに比べると容易に修正できます。さらに後のテスト工程で見つかるバグが激減し、工数削減や納期短縮にもつながります。新時代のユニットテストをぜひ実感してください。

### 【受講後の効果】

- 生成AIを活用してユニットテストが作成できるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>既存業務のユニットテストを生成AIで作成して品質を向上させたい方</li><li>新規開発でユニットテストを生成AIで作成して少ない工数で品質向上させたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>システム開発の基礎知識</li></ul>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>「オンライン受講にあたって」の「生成AIサービスのアカウント準備について」をご確認のうえ、お申し込みください。</li><li>生成AIサービスおよびJUnitが使用できない場合、聴講は可能ですが演習には参加できませんのでご注意ください。</li></ul>

レベル感	初級
講座時間	13:00 – 17:00
講座コード	BH006S

### 講義内容

- 生成AIの基本  
生成AIの説明  
ユニットテストの作成例
- ユニットテストの基本  
ユニットテストの考え方
- 生成AIによるホワイトボックステスト  
ホワイトボックステストとしてのユニットテスト
- 生成AIによるブラックボックステスト  
ブラックボックステストとしてのユニットテスト

※内容は変更になる場合もあります。

# 課題解決実践提案 入門編

## ～ロジカルシンキングを応用した論理思考と課題解決～

マネジメント

### 【概要】

本講座では、課題解決の手法の一つである「ロジカルシンキング」を応用した「課題解決提案テクニック」を習得します。

ITプロジェクトやシステム開発の現場においては、プロジェクト遂行上の問題が発生することは決して珍しくありません。それらがお客様からの課題や要求事項として我々に提示されることが多くあります。そこで必要になるのが、論理的に課題や要求事項を整理し、説得力・納得感のある解決策を提案する力です。

本講座では、そのような問題に論理的に対処するための、ロジカルシンキングを活用した「課題分析手法」と、相手から共感を得るための「資料作成テクニック」を習得します。

「論理的に考えをまとめられるようになりたい」「説得力・納得感のある資料を作りたい」という方にたいへんオススメの講座です。

### 【受講後の効果】

- 論理的な資料をどうつくればよいのか理解できる
- 資料をつくるに先立って、論理的に考えをまとめられる
- 説得力のある課題解決提案を実現できる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• 漠然とした業務課題について、整理する技術を身につけたい方</li><li>• 課題の解決策について、論理的に説明できるようになりたい方</li><li>• 説得力、納得感のある施策を考えられるようになりたい方</li><li>• 相手の気持ちの変化に対応しながらも、効率的に期待されるアウトプットを提示できるスキルを身につけたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特になし</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	GK001S

### 講義内容

論理思考のための構造

1. 全体概要
2. タテの論理（論証図）
3. ヨコの論理（MECE）

課題解決のための構造

1. コンテキストと3層論理構造
2. 課題解決フレームワーク
3. 構造からドキュメントへ

※内容は変更になる場合もあります。

# 議事録の作法

## ～若手からベテランまで必須のビジネススキル～

新人・若手向け

### 【概要】

本講座は、議事録の作成経験が少ない方を対象に、議事録の作成手順や作成ノウハウについて学習していただく講座です。

最近AIでも会話の文字起こしがかなりの精度で行えるようになっていますが、それだけでは議事録になりません。

議事録は会議の目的を達成するために書く必要があります。

事前準備段階から、会議の目的を確認する、会議の参加者を理解する、主要な議題について理解するなどが必要になります。

また議事録作成後には、関係者に内容を確認してもらうなどの作業も必要になります。

本講座では、それらの内容について、コンパクトかつ濃密に解説いたします。また講座の大半を占める演習では、実際に議事録を書いて実践力を高めます。議事録の指導をされる管理者の方にもオススメです。

### 【受講後の効果】

- ・ 議事録の目的や重要性を理解し、よい議事録とは何かを理解している
- ・ 議事録作成のポイントと手順を理解し、議事録作成ができるようになる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 議事録の作成やチェックを担当する方</li><li>・ 議事録の品質を向上したい方</li><li>・ 議事録の作成を効率化したい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	13:00 - 17:00
講座コード	GK002H

### 講義内容

- ・ 会議とは？
- ・ 議事録の目的
- ・ 議事録作成手順とポイント
- ・ 議事録事例演習
- ・ まとめ

※内容は変更になる場合もあります。

# 情報セキュリティ心得 ～インシデントを防ぐために～

新人・若手向け

## 【概要】

本講座は、情報セキュリティについてはじめて学ぶ方を対象に、情報セキュリティの最新動向や日常業務で気をつけるポイントを解説します。

サイバー攻撃はますます増加しており、巧妙化が進んでいます。在宅勤務などを通じた社外からのネットワークアクセスも増えており、セキュリティインシデントや情報漏洩のリスクは従来とは比べようもなく高まっています。セキュリティリスクへの対応としては、もちろん技術的な対策が必要ですが、それだけでは防ぎきれませんので、最終的には、一人一人が注意する必要があります。

本講座では、情報セキュリティの基礎知識から、日常業務で気をつけるポイントまで、講義と演習を通じて、知識と理解を深めていただきます。

## 【受講後の効果】

- ・ 情報セキュリティを意識して、リスクとなるような行動を避けて、リスクを減らすことができる

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報セキュリティの基本を理解したい方</li><li>・ 情報セキュリティインシデントを防ぎたい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級
講座時間	13:00 - 17:00
講座コード	GK003H

## 講義内容

- ・ 情報セキュリティが重要な理由
- ・ 情報セキュリティの10大脅威
- ・ マルウェアの脅威について
- ・ 演習
- ・ まとめ

※内容は変更になる場合もあります。

# 施策推進 ～業務遂行のコツが分かる～

ベーシック

## 【概要】

自らが行うべき施策を推進する際に有用な、組織を動かすための知識を学びます。自分ひとりの力には限界があるため、どんな仕事でも組織を動かすことが必要になります。そして、組織を動かすには、背景や目的、方向性などを説明しなければいけません。

説明ロジックは、ロジカルシンキングなどの手法を使って作ることができますが、組織を動かそうとすると、ロジックを説明するだけでは誰も動いてくれません。さらには、抵抗する人たちが存在することも事実です。

本講座では、業務を遂行する上で避けられない、施策推進のためのヒューマンスキルとマインド、組織を動かす際に生じがちな組織間での板挟み状況を調整する際のポイントなどについて理解し、体感いただきます。

## 【受講後の効果】

- 施策推進における目的共有、組織巻き込みの重要性やポイントを説明できるようになる
- 部門内や他部門との意思疎通を図るために重要となるヒューマンスキルとマインドを身に付ける

対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>• 事業会社の新入社員</li><li>• 開発ベンダー／情報システム部門の新入社員</li><li>• リスキングとしてスキルを強化したい方</li></ul>
前提知識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特にございません</li></ul>
注意事項	

レベル感	初級・中級
講座時間	13:00 - 17:00
講座コード	GK004H

## 講義内容

1. 施策推進とは
  - 組織を動かすには
  - 狙いはマジョリティを攻略すること
2. 施策を推進する際のポイント
  - PDCAサイクルの考え方
  - PDCAサイクルとOODAループ
3. 組織環境の理解
  - VUCAの時代
  - 重要となる組織横断的な取り組み
4. 施策推進のためのヒューマンスキル
  - 施策推進に有効な12のヒューマンスキル
5. 施策推進のためのマインド
  - 施策推進に有効な3つのマインド
6. 組織間調整のポイント
  - 多数の関係者とのミーティングの進め方
  - コンフリクト(対立)解消
  - 部門間の予算調整を体感しよう【演習】

※内容は変更になる場合もあります。

## 【概要】

本講座では、心理的側面から自己と他者を客観的に理解するスキルを学び、職場での関係性の課題を洞察する力を養います。

具体的には、相手の心を理解し共感する力、客観的視点から判断する力、及び関係性を改善するスキルを学び、うまくいかない課題に対して具体的な行動の方針を考え出せるようになります。

本研修はコミュニケーション改善プログラムBCB(Breaking the Communication Barriere)の認定ファシリテーターである講師が担当します。

## 【受講後の効果】

- 心理学的アプローチを用いて部下や顧客との関係性を客観的に分析し、具体的な改善策を導き出せるようになる

対象者	• リーダー職またはリーダー候補者で、部下や顧客との関係性改善に課題を感じている方
前提知識	• 特別な心理学知識は不要です
注意事項	

レベル感	中級
講座時間	9:30 – 17:30
講座コード	—

講義内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• リーダーシップに必要な心理学的スキルと研修のスコープ</li> <li>• コミュニケーションの障壁を破る（BCB）技術の紹介</li> <li>• 神経言語プログラミング（NLP）と交流分析（TA）の基本</li> <li>• コミュニケーション問題の発見と分析</li> <li>• 関係性を理解し改善するための戦略</li> </ul>	
※内容は変更になる場合もあります。	

## 【概要】

本セミナーはビジネスシーンにおけるAIの活用方法について学び、ビジネスへのAI導入についての見識を深めることを目的としています。画像認識や音声認識、チャットボットなどのAI技術はあらゆる業種に適用できる技術であり、特定の分野だけに限定されるものではありません。今後、業界業種を問わず様々な分野でAIが浸透していくことになるでしょう。本セミナーでは漠然とAIについて学んでいくのではなく、企業への導入事例に基づいて、AI導入の目的や効果について要点を整理しながら考察していきます。

AIの導入事例を分析していくと、背景にある機械学習やディープラーニングというテクノロジーの存在に気づきます。機械学習やその手法の一つであるディープラーニングについての理論を学ぶことでAIの輪郭はより鮮明に見えるようになります。セミナーの途中には、講師が機械学習を実践する様子を実演することで、より具体的なAI開発のイメージを理解していただけるようにしています。

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI事業の企画立案推進を担う方</li> <li>AIリテラシーを身につけたい方</li> </ul>
前提知識	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講座はITスキルアカデミー（運営会社：株式会社クロノス）が主催する提携講座です。</li> <li>講座の実施・運営に必要な受講者様の個人情報を提携先企業に提供します。</li> <li>講座の受講に関するご案内を提携先企業よりご連絡します。</li> <li>集合研修の開催場所は大阪会場になります。</li> </ul>

レベル感	エントリー
講座時間	14:00 - 17:00
講座コード	ZK001H

講義内容
<ol style="list-style-type: none"> <li>AIの概要</li> <li>AIの仕組み</li> <li>ビジネス活用事例</li> <li>これからのAI</li> </ol> <p>※内容は変更になる場合もあります。</p>

## 【受講後の効果】

- AI導入の目的、メリット/デメリットを理解する
- 一般的なシステム開発とAIを活用するシステム開発の違いを理解する
- AIの導入事例からAIの可能性を理解する
- 機械学習、ディープラーニングの特徴を理解する
- 教師あり学習/教師なし学習といった機械学習の手法を理解する

## 【概要】

本研修は、プログラミング知識のない方でもAIの仕組みを学べることをコンセプトにした実践的な内容としています。普段の仕事で使っている表計算ソフトやプレゼンソフトで作業する時と同じように、マウスを使って自分でAIをつくってみることで、より詳細にAIへの理解を深めていきます。

AI開発の進め方は通常のシステム開発と異なります。機械学習（マシンラーニング）と呼ばれるAIの開発手法は、データの前処理や学習・評価、システムへの組み込みなど、実際に体験してみないとわからないことが多くあります。

プログラムを一切記述することなく、しかし自ら思考し、手を動かすことでAIの仕組みを理解できるカリキュラムをご用意しました。ブラウザさえあればクラウド上で、パネル（モジュール）を組み合わせるだけで機械学習を実践して、学習結果を確認ことができます。配置したパネルを組み換えてみたり、様々な機械学習アルゴリズムを試してみたりすることで、機械学習の精度をどう高めていくか、仕組みに触れることでAIの詳細を理解していただけます。

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI事業の企画立案推進を担う方</li> <li>実務でAIを活用している方もしくは予定のある方</li> </ul>
前提知識	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講座はITスキルアカデミー（運営会社：株式会社クロノス）が主催する提携講座です。</li> <li>講座の実施・運営に必要となる受講者様の個人情報をご提供先企業に提供します。</li> <li>講座の受講に関するご案内をご提供先企業よりご連絡します。</li> <li>集合研修の開催場所は大阪会場になります。</li> </ul>

レベル感	初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	ZK002S

講義内容
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械学習</li> <li>2. 機械学習プロセス</li> <li>3. 実践演習 1 - 教師あり学習（回帰問題）</li> <li>4. 実践演習 2 - 教師あり学習</li> <li>5. 実践演習 3 - 教師なし学習</li> <li>6. 総合演習</li> </ol>
※内容は変更になる場合もあります。

## 【受講後の効果】

- 機械学習の具体的なプロセスを理解する
- 訓練データやテストデータの準備方法について理解する
- 開発したAI（学習済みのモデル）の評価手法を理解する
- 既存システムにAIを組み込む方法を理解する
- 回帰、分類、クラスタリングの考え方を理解する

## 【概要】

近年、クラウド環境の普及や、フレームワークやライブラリの充実などによりAI開発のハードルは低くなってきています。以前に比べて容易に機械学習やディープラーニングに取り組むことが可能となってきています。しかし、これらのツール群を使いこなせるだけではAI導入はうまくいきません。AIの特性や導入事例に知見を持ったジェネラリストが求められています。

そして誕生したのが日本ディープラーニング協会が実施するDeep Learning for GENERAL（G検定）です。組織内の全員がG検定取得を必須している企業があるなど、G検定の存在意義は大きくなってきています。

本研修は、G検定に合格するために必要な知識、知見を身につけることを目的としています。AIや機械学習、ディープラーニング、そしてこれらの応用に向けた知見を身につける必要がありますが、AI関連の用語と合わせて幅広い知識が求められるため、独学での学習を苦にする方が多く見られます。

そこで、本試験の形式を踏襲した200問近い演習問題を交え、テキストによるインプットだけでなく、アウトプットもしながら知識を深めていきます。テキストを読むだけでは理解できない部分は、G検定資格を保持する講師がしっかりと解説いたします。

※6時間×2日のコースです。

対象者	・ G検定合格を目指してる方
前提知識	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本講座はITスキルアカデミー（運営会社：株式会社クロノス）が主催する提携講座です。</li> <li>・ 講座の実施・運営に必要な受講者様の個人情報をご提供先企業に提供します。</li> <li>・ 講座の受講に関するご案内をご案内を提携先企業よりご連絡します。</li> <li>・ 集合研修の開催場所は大阪会場になります。</li> </ul>

レベル感	初級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	ZK003W

講義内容	
1.	人口知能（AI）とは
2.	人口知能をめぐる動向
3.	人口知能分野の問題
4.	機械学習の具体的な手法
5.	ディープラーニングの概要
6.	ディープラーニングの手法
7.	ディープラーニングの研究分野
8.	ディープラーニングの応用に向けて
※内容は変更になる場合もあります。	

## 【受講後の効果】

- ・ AIの歴史から人工知能の一般的な定義を理解する
- ・ 機械学習の具体的な手法を理解する
- ・ 従来の機械学習とディープラーニングの違いを理解する
- ・ ディープラーニングの基礎から応用までを理解する
- ・ 産業への応用、法律、倫理等、ディープラーニング活用に向けた取組みを理解する

## 【概要】

本研修ではプログラミング言語Pythonを中心に機械学習プログラミングに取り組みます。Pythonの開発環境であるJupyter Notebookを利用することで、ブラウザを使って手軽にPythonプログラミングを始めることができます。プログラミング言語Pythonは現在、機械学習の分野で注目を集めている言語です。本研修ではPythonの数学ライブラリであるNumPyやグラフ描画ライブラリであるMatplotlibについて解説した後、機械学習ライブラリscikit-learnを活用して実践的な機械学習プログラミングに取り組みます。

AIの開発プロセスは、Webシステムやスマホアプリの開発プロセスとは進め方が異なります。機械学習と呼ばれるAIの開発手法はデータの前処理、アルゴリズムの選定、学習・評価、システムへの統合など、実際に体験してみないとわからないことが多くあります。

本研修では実際に手を動かしてPythonプログラムを開発することで、機械学習の一連の流れを体験できるようにカリキュラムを構成しています。

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI開発に関わっている方、もしくは予定のある方</li> </ul>
前提知識	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講座はITスキルアカデミー（運営会社：株式会社クロノス）が主催する提携講座です。</li> <li>講座の実施・運営に必要な受講者様の個人情報を提携先企業に提供します。</li> <li>講座の受講に関するご案内を提携先企業よりご連絡します。</li> <li>集合研修の開催場所は大阪会場になります。</li> </ul>

レベル感	初級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	ZK004S

講義内容	
1. AI	
2. Pythonプログラミング（入門、NumPy、Matplotlib）	
3. 機械学習（教師あり/なし、データ、ディープラーニング）	
4. 機械学習プロセス（前処理、モデルの学習、モデルの評価）	
5. scikit-learnによる機械学習プログラミング	
6. 総合演習（住宅価格データの予測、手書き数字データの認識）	
※内容は変更になる場合もあります。	

## 【受講後の効果】

- 機械学習の具体的なプロセスを理解する
- 訓練データやテストデータの準備方法について理解する
- 開発したAI（学習済みのモデル）の評価手法を理解する
- 既存システムにAIを組み込む方法を理解する
- 回帰、分類、クラスタリングの考え方を理解する

## 【概要】

現在AIが注目される背景にはディープラーニングの存在があります。本研修はディープラーニングの基盤となる機械学習アルゴリズム、ニューラルネットワークについての詳細を学びます。プログラミング言語Pythonを用いて、ニューラルネットワークの主要な構成要素である活性化関数、損失関数、最適化処理について、実際にプログラムを開発しながら理解を深めていきます。

研修の後半ではディープラーニング用のライブラリであるKerasを活用して実践的な機械学習に取り組みます。ニューラルネットワークの基礎知識を学んだ後に、Kerasのような抽象度の高いライブラリを取り扱うことで、スムーズにディープラーニングの実装に取り組むことができるでしょう。

ニューラルネットワークやディープラーニングを学ぶ上では線形代数や微分といった数学的な知識が必要となりますが、これらは多くの機械学習初学者にとって理解の難しいものです。

本研修では複雑な数式に捉われないように、実際に動作するプログラムを優先して開発することでニューラルネットワークの仕組みを学んでいきます。

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI開発に関わっている方、もしくは予定のある方</li> </ul>
前提知識	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講座はITスキルアカデミー（運営会社：株式会社クロノス）が主催する提携講座です。</li> <li>講座の実施・運営に必要な受講者様の個人情報を提携先企業に提供します。</li> <li>講座の受講に関するご案内を提携先企業よりご連絡します。</li> <li>集合研修の開催場所は大阪会場になります。</li> </ul>

レベル感	中級
講座時間	10:00 – 17:00
講座コード	ZK005S

講義内容
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械学習</li> <li>2. ニューラルネットワーク</li> <li>3. ニューラルネットワークの実装</li> <li>4. ディープラーニング</li> <li>5. Kerasによるディープラーニングの実践</li> </ol>
※内容は変更になる場合もあります。

## 【受講後の効果】

- ニューラルネットワークの特徴について理解する
- 活性化関数、損失関数、最適化処理について理解する
- エポックやバッチサイズといった学習時のパラメータについて理解する
- Kerasを活用してディープラーニングに取り組むことができる
- 共有データセットを活用して機械学習に取り組むことができる

## 【概要】

本研修はディープラーニングのライブラリであるKerasを利用して、画像認識プログラムの開発に取り組みます。Kerasライブラリは適度に抽象化されており、プログラミング知識のあるITエンジニアにとって直感的で理解しやすいものになっています。Kerasを利用してニューラルネットワーク上のコンポーネントを適切に設定していくことでスムーズにディープラーニングを始めることができます。

本研修では畳み込みニューラルネットワーク（CNN：Convolutional Neural Network）について詳細に取り上げます。CNNは画像認識の領域で多く用いられるディープラーニングの手法です。CNNでは画像データのような空間情報を表現した特徴ベクトルについて、周辺の特徴量を合わせて学習を進めていきます。

本研修ではCNNの実装を進めながら、データ拡張や転移学習といった実践的な実装方法を習得していきます。CNNで構築したプログラムは計算量が多くなるため、相応のマシンスペックが必要になります。本セミナーではクラウドサーバー上にGPUを搭載した開発マシンを準備し、ブラウザを通じてプログラミングを進めていきます。

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI開発に関わっている方、もしくは予定のある方</li> </ul>
前提知識	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講座はITスキルアカデミー（運営会社：株式会社クロノス）が主催する提携講座です。</li> <li>講座の実施・運営に必要な受講者様の個人情報を提携先企業に提供します。</li> <li>講座の受講に関するご案内を提携先企業よりご連絡します。</li> <li>集合研修の開催場所は大阪会場になります。</li> </ul>

レベル感	上級
講座時間	10:00 - 17:00
講座コード	ZK006S

講義内容
<ol style="list-style-type: none"> <li>全結合型ニューラルネットワーク</li> <li>畳み込みニューラルネットワーク</li> <li>データ拡張</li> <li>学習済みモデルの再利用</li> <li>【Appendix】Keras実践マニュアル</li> </ol> <p>※内容は変更になる場合もあります。</p>

## 【受講後の効果】

- 畳み込みニューラルネットワーク（CNN）の特徴について理解する
- 画像のデータ拡張（Data Augmentation）について理解する
- 転移学習の仕組みについて理解する
- Kerasを活用して画像認識プログラミングに取り組むことができる
- Kerasの学習済みモデルを再利用できる

# その他

# PDU対象講座

ヒンシツ大学はPMI公認のトレーニングパートナー（**PMI-ATP**）です。  
対象講座を受講いただくことで**PDU**が取得できます。



対象講座	取得可能PDU
プロジェクトマネジメントの実践	7PDU (Ways/Working:4、PowerSkills:2、Business:1)
マスターテスト計画書の作成・活用実践	7PDU (Ways/Working:4、PowerSkills:1、Business:2)
要件定義入門	6PDU (Ways/Working:3、PowerSkills:1、Business:2)
要件定義の実践	7PDU (Ways/Working:4、PowerSkills:1、Business:2)
テスト計画	6PDU (Ways/Working:3、PowerSkills:1、Business:2)
テスト管理	6PDU (Ways/Working:2、PowerSkills:3、Business:1)
不具合分析	6PDU (Ways/Working:4、PowerSkills:1、Business:1)
テスト戦略	6PDU (Ways/Working:2、PowerSkills:1、Business:3)

- \* PMI-ATP：世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIの公認トレーニングパートナー
- \* PDU：PMIが認定する国際資格「PMP（Project Management Professional）」の維持に必要な学習単位です。1PDUは1時間に相当します。PMPを3年ごとに更新する際に、研修関連で35PDUが必要となります。

本講座の受講後、**PDU取得証（受講修了証）**を発行いたします。  
本受講修了証は、PDU申請内容のエビデンスとなり、  
PMI（Project Management Institute）にPDUを申請する際にご利用可能です。

# 公開講座のお申し込み

公開講座は、ヒンシツ大学のホームページよりお申し込みいただけます。

【URL】 <https://www.hinshitsu-univ.jp/>

こちらから→ [公開講座](#)

ヒンシツ大学

検索

# チケットの利用について

---

チケットとは、あらかじめ必要枚数分をまとめて購入いただき、公開講座で実施しているチケット対象講座の中から、お一人ずつご希望にあわせて自由に選んでご受講いただける利用方式です。

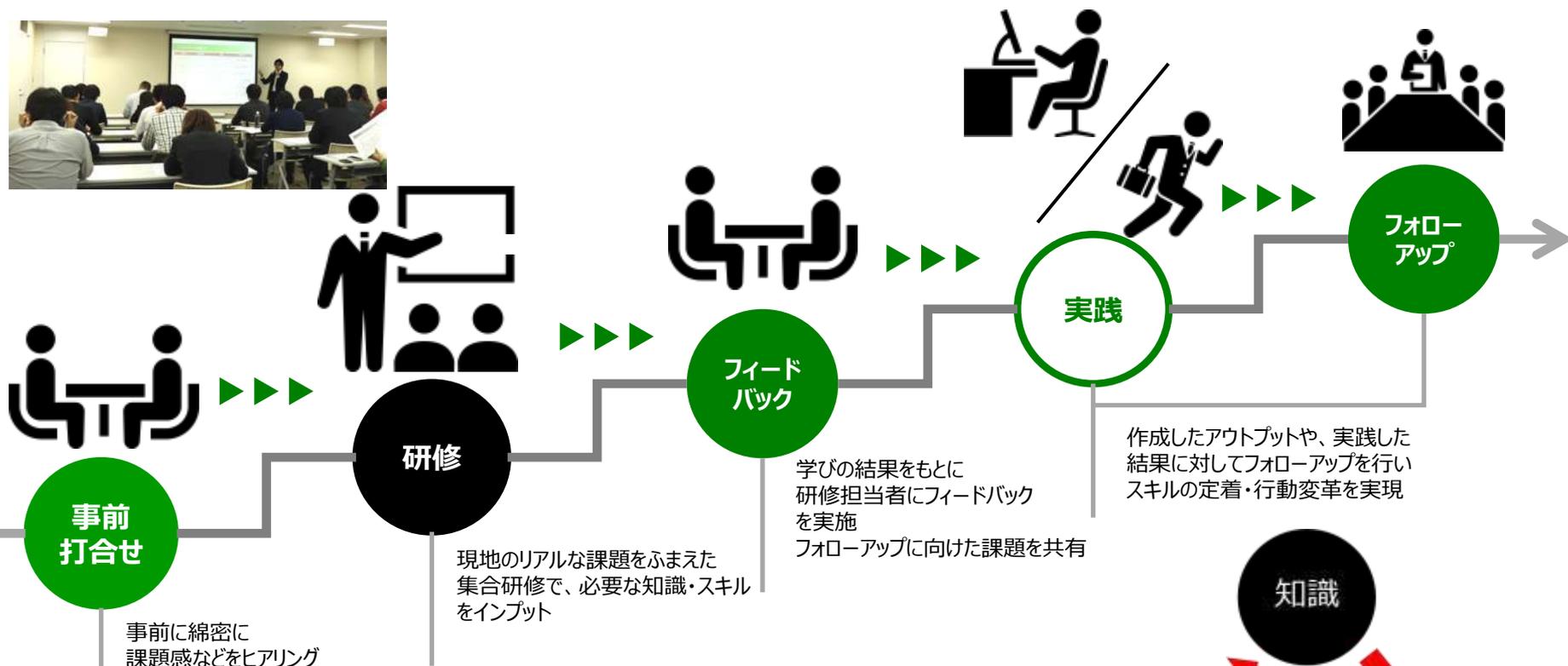
基本講座であれば受講料に関係なく、チケット1枚で1講座ご受講いただけます（2日間コースなど、一部例外もございます）。

## 【ご利用のメリット】

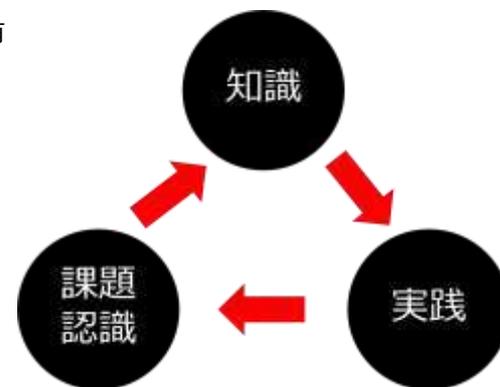
- 前金制のため、年度末の予算消化など一括で支払いを終了させたい場合にオススメです。
- オプションの月次利用実績レポートにより、教育担当者の管理負荷の軽減が可能です。
- 受講者本人が受講可能な日付を選択して申し込みができ、日程変更も可能です。

チケット対象講座、およびご購入の詳細については、お問い合わせください。

# 企業研修としてご要望に応じたカスタマイズも可能



詳細についてはお問い合わせください。



得た知識を意識的に実践できるように、定着化させる

その常識、変えてみせる。

**SHIFT**